SONY

3-299-270-**01**(3)

ホームシアター
システム

取扱説明書

HT-IS100

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 **電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

↓

安全のための注意事項を守る

4～6ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。
7ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

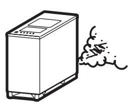
設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



→

1. **電源を切る**
2. **電源プラグをコンセントから抜く**
3. **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号


火災


感電

行為を禁止する記号


禁止


分解禁止


接触禁止


ぬれ手禁止

行為を指示する記号


指示


プラグをコンセントから抜く

目次

⚠警告

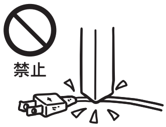


下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

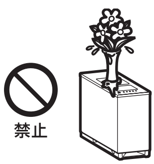
上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



内部に水や異物が入らないようにする

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。また、本機を水滴のかかる場所に置かないでください。

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

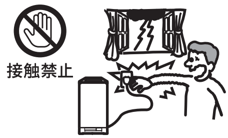
火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。

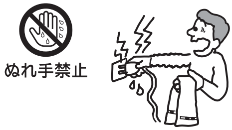


⚠注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



大音量で長時間つづけて聞かない

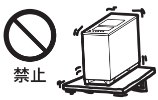
耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。



安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。通常、本体の電源ボタンを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



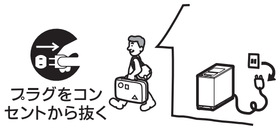
コード類は正しく配置する

電源コードやAVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

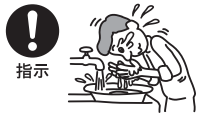
電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない



電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。
液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。

必ず次の処理をする



➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

⚠警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く



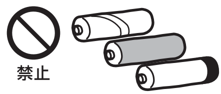
➡ 電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。
➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない



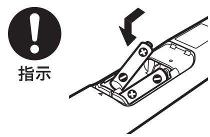
破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない



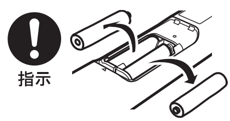
電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

＋と－の向きを正しく入れる



＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。
➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す



電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。
- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。（チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）
- 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。

設置時のご注意

本機の上に重いものを置かないでください。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本機のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。研磨用パッドや研磨剤、シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

テレビ画面に色むらが起きたら

本機のスピーカーによりテレビ画面に色むらが起きた場合は、テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、スピーカーをさらにテレビから離してください。

この取扱説明書の使いかた

- この取扱説明書では、リモコンのボタンを使った操作説明を主体にしています。
  リモコンと同じなまえの本体のボタンも同じように使えます。

本機はドルビー*デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（II）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS**デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、"AAC"ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

**米国パテントナンバー：5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,487,535 の実施権、及び米国、世界各国で取得済み、または出願中のその他の特許に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDTS, Inc.の登録商標です。DTSロゴ及び記号はDTS, Incの商標です。© 1996-2007 DTS, Inc. 無断複写・転載を禁じます。

本機は、High-Definition Multimedia Interface（HDMI™）技術を搭載しています。
HDMI、HDMIロゴ、及びHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または、登録商標です。

"BRAVIA"はソニー株式会社の登録商標です。

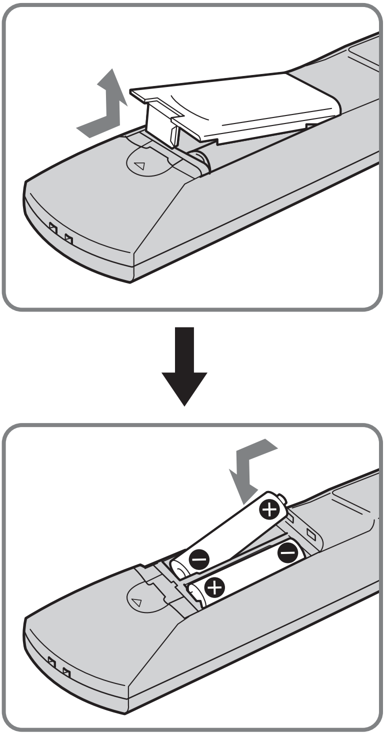
付属品を確かめる

本機には次の付属品が同梱されています。

リモコン（RM-AAU037）（1）
単3乾電池（2）
光デジタルコード（2.5 m）（1）
FMワイヤーアンテナ（1）
AMループアンテナ（1）
測定用マイク（1）
リモコンレシーバー付きスピーカー（1）
スピーカー（4）
台座（1）
壁掛け金具（5）
レンチ（1）
ネジ（+PSW4 × 12）（1）
取扱説明書（本書）（1）
クイックスタートガイド（1）
保証書（1）
ソニーご相談窓口のご案内（1）

リモコンに電池を入れる

付属のリモコンで本機を操作できます。+と−の向きを合わせて、単3乾電池（付属）2個を入れてください。



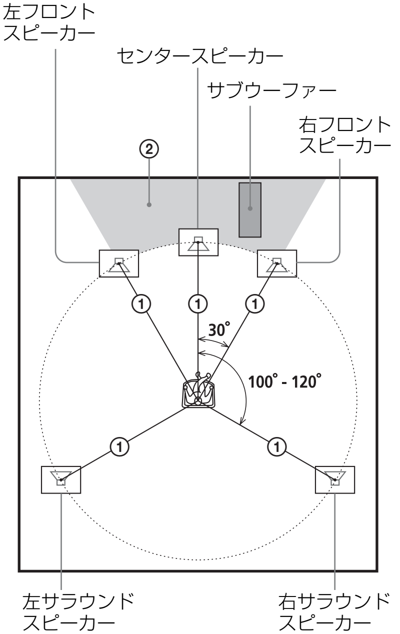
ご注意

- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 新しい乾電池と使った乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池を交換するときは、異物が入らないようにご注意ください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部（）に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液漏れや破裂を避けるために乾電池を取り出してください。

準備1：スピーカーを設置する

サラウンド効果を充分に楽しむためには、サブウーファー以外の5つのスピーカーをリスニングポジションからなるべく等距離（リスニングポジションを中心とした同心円上）に設置してください（①）。サブウーファーは（②）の範囲で設置することをおすすめします。

次のように設置します。

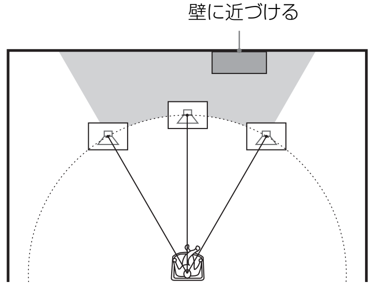


ちょっと一言

- サブウーファーはリスニングポジションから見て、縦向き横向きのどちらでも設置することができます。
- スピーカーを設置するときに、スピーカーが動いてしまう場合があります。このようなときは市販のワイヤークランパーや市販のテープなどを使い、スピーカーコードを固定してください。

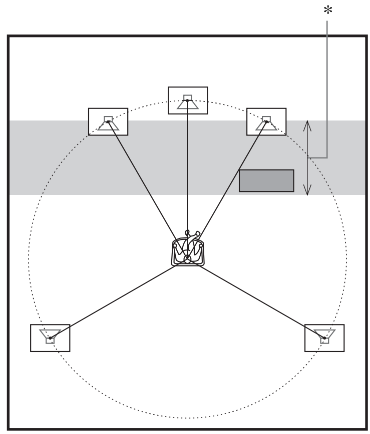
サブウーファーを効果的に使う

音声の低域の効果を得るには、サブウーファーをできる限り壁に近づけて設置してください。

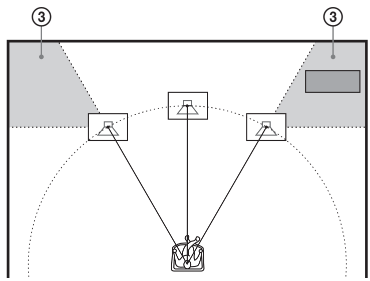


ご注意

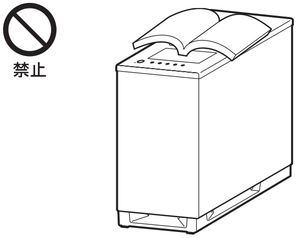
- サブウーファーをフロントスピーカーの前に置く場合は、50 cm以内*に置いてください。



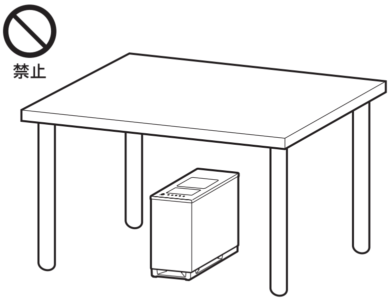
- サブウーファーを外側（③）に置くと音声の低域が効果的に得られない場合があります。リスニングポジションからの距離の設定が必要になります。

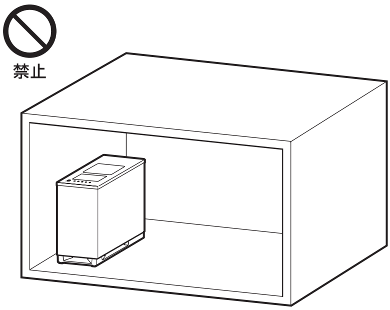


- サブウーファー上部にものを置かないでください。

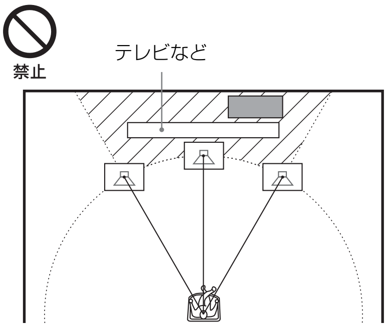


- サブウーファーを机の下やキャビネットの中などに置かないでください。





- テレビなど障害物となるものの後ろにサブウーファーを置かないでください。



ご注意

- スピーカーを次のような場所には置かないでください。
  - ー 傾いた所。
  - ー 極端に温度が高い所または低い所。
  - ー ほこりの多い所。
  - ー 湿気の多い所。
  - ー 不安定な台の上など。
  - ー 直射日光が当たる所。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床にスピーカーやスピーカーを取り付けたスピーカースタンド（別売）を置くときは注意してください。床に変色、染みなどが残ることがあります。
- サブウーファーの位置によりテレビ画面に色むらが起きることがあります。このようなときは、サブウーファーをテレビから離してください。

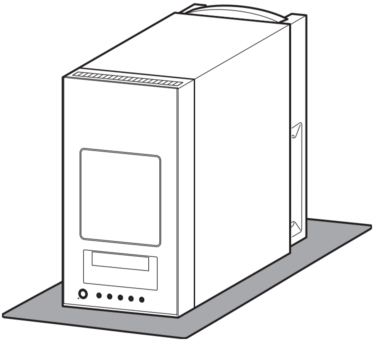
ちょっと一言

- スピーカーの配置を変えた場合、設定の変更をおすすめします。詳しくは「準備6：自動でスピーカーを設定する」（27ページ）をご覧ください。

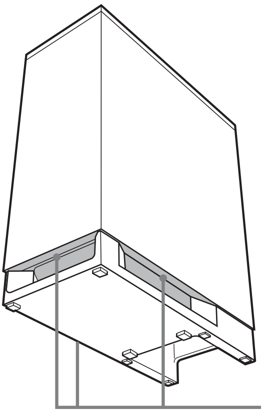
次のページへつづく

サブウーファーの取り扱いについてのご注意

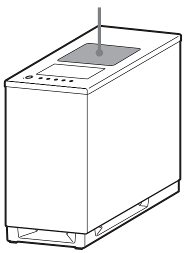
- 接続する際に、本機を横にする場合は柔らかい布を下に敷いてください。



- スリットに手を入れて持たないでください。内部のスピーカーユニットに手が触れ、ユニットを傷めるおそれがあります。
  サブウーファーを持つときは、底を持ってください。



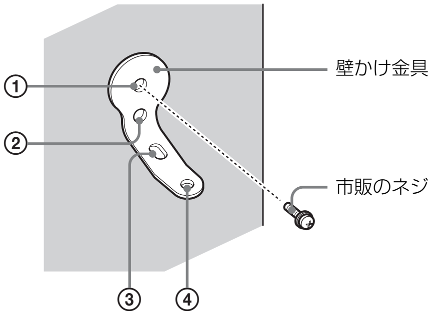
- スピーカーユニットが搭載されているため、サブウーファー上部を押さないでください。



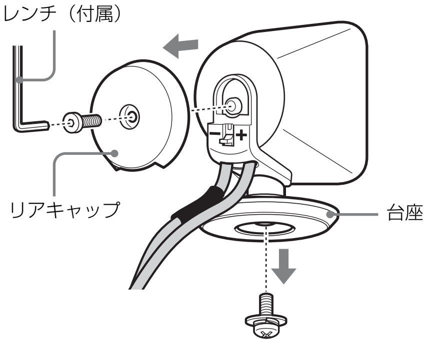
スピーカーを壁に取り付ける

1 壁かけ金具の①の穴径に合う市販のネジを用意する。

2 ①の穴にネジを通し、壁かけ金具を取りつける。

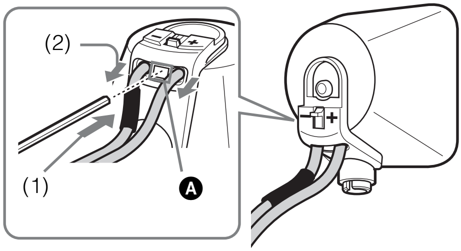


3 付属のレンチでリアキャップをはずし、プラスドライバーでスピーカーの台座を取りはずす。



次のページへつづく

4 Ⓐを付属のレンチで押し(1)、スピーカーコードを取りはずす(2)。

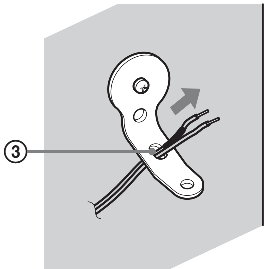


レバーが下がっているとき、スピーカーコードはロックされています。

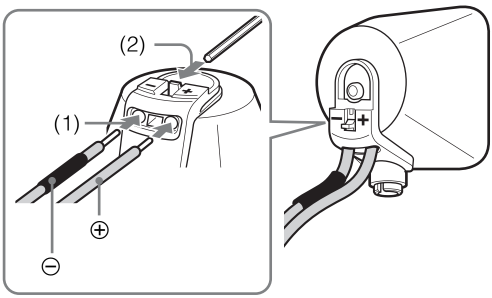
レバーが上がっているとき、スピーカーコードは取りはずせます。



5 スピーカーコードを③の穴に通す。



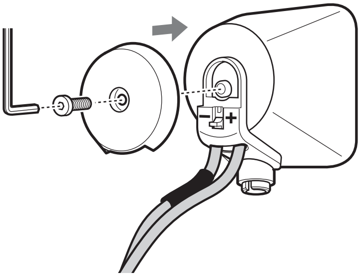
6 取りはずしたスピーカーコードを⊕/⊖極に合わせてスピーカー端子に挿入し(1)、レバーをしっかりと下げる(2)。



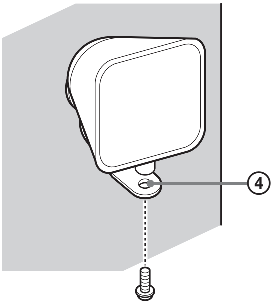
ちょっと一言

- レバーを下げにくい場合は、付属のレンチを使ってください。

7 付属のレンチでスピーカーのリアキャップを取り付ける。



8 手順3ではずしたネジを使い、④の穴から金具とスピーカーを固定する。



ご注意

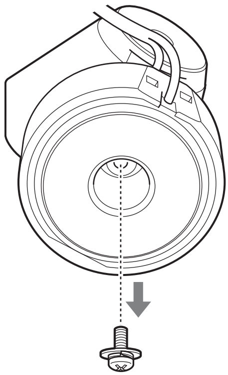
- 壁の材質や強度に合ったネジをお使いください。壁の材質によっては破損するおそれあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。スピーカーは補強された壁に取り付けてください。
- 販売店や工事店に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は責任を負いません。

次のページへつづく

センタースピーカーについて

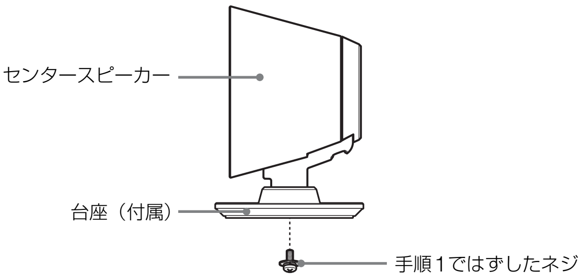
リモコンレシーバーをセンタースピーカーから取りはずし、リモコンレシーバーとセンタースピーカーを別々に使うことができます。
リモコンレシーバーをセンタースピーカーといっしょに壁に取り付けることもできます。

1 プラスドライバーでリモコンレシーバーを取りはずす。

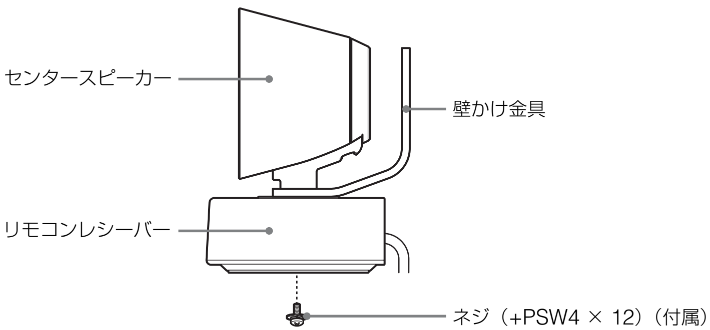


2 ネジでスピーカーを固定する。

センタースピーカーとリモコンレシーバーを別々にお使いのとき

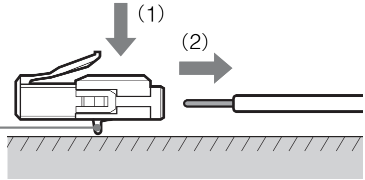


リモコンレシーバーを壁に取り付けてお使いのとき



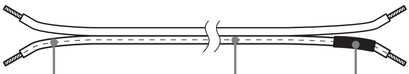
ちょっと一言

• スピーカーコードはコネクターから取りはずすことができます。突起を下に向け、コネクターを平らな場所に押し当てながら（1）、スピーカーコードを抜きます（2）。



ご注意

• スピーカーコードをコネクターにつなぎなおすときは、スピーカーコードはスピーカー端子の極性に合わせて⊕は＋どうし、⊖は−どうしでつなぎます。白い文字や線が入っている（片側の端に黒いチューブがついている）コードを−につないでください。極性を間違えると、低音が不足したり、正しい音声が出ません。

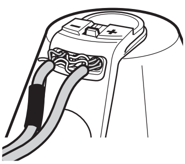


スピーカーのショートを防止する

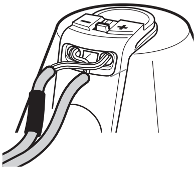
スピーカーをショートさせると本機の故障の原因になります。ショートを防ぐために、スピーカーをつなぐときは次のことに充分注意してください。スピーカーコードの両端の被覆がはがれている部分が、他のコードの先端と接触しないように気をつけてください。

スピーカーコード接続の悪い例

スピーカーコードの先端が
他のコードと接触している。

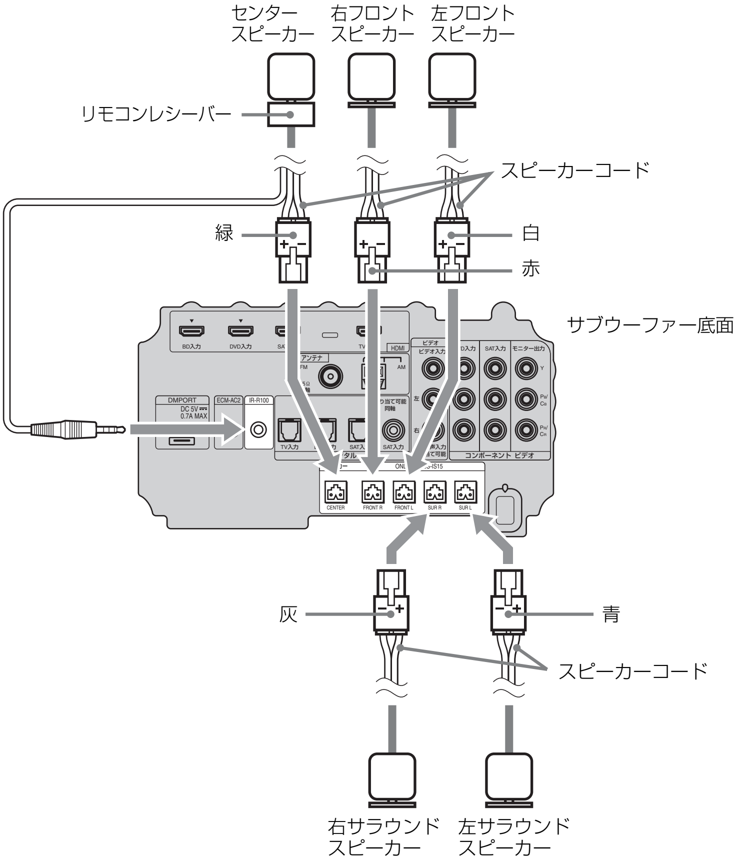


スピーカーコードの先端が
端子から大幅にはみ出し、
他のコードと接触している。



準備2：スピーカーをつなぐ

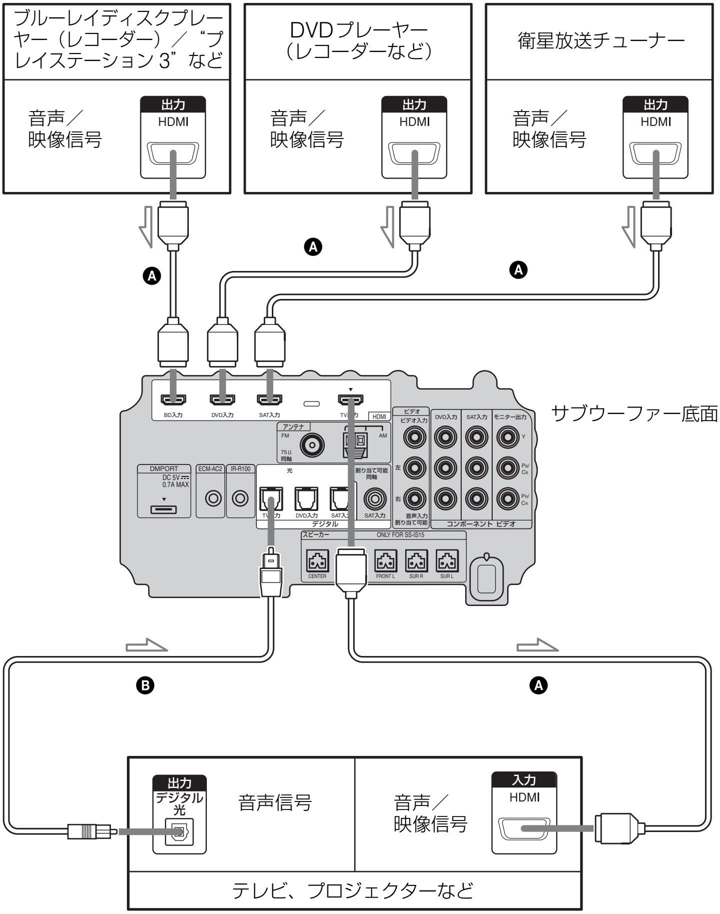
スピーカーコードのコネクターを、コネクターと同じ色のスピーカー端子につなぎます。
リモコンレシーバーはIR-R100端子につなぎます。



準備3a：HDMI端子がある機器をつなぐ

HDMIケーブルを使って、他の機器とつなぐことをおすすめします。
HDMIを使えば、簡単に高音質、高画質が楽しめます。

テレビの音声を本機で聞くためには、テレビの音声出力と本機の音声入力を、光デジタルコードでつなぐ必要があります。
HDMI接続をしたときに便利なHDMI機器制御については、「ブラビアリンク機能」（44ページ）をご覧ください。



：信号の流れ

❹HDMIケーブル（別売）
❺光デジタルコード（付属）

次のページへつづく

ご注意

- HDMIに対応していない機器をお使いの場合は、21 ページをご覧ください。
- 他の機器を本機のデジタル入力端子とHDMI端子に同時に接続した場合、HDMI端子の信号が優先されます。

HDMI端子の接続について

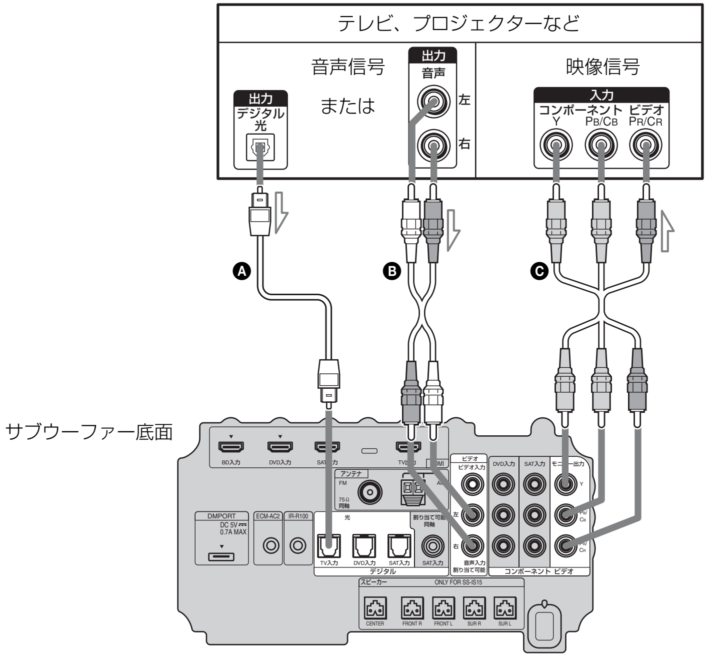
- 高画質をお楽しみいただくためには、HDMIロゴがついたコードが必要です。ソニー製のHDMIケーブルをおすすめします。
- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。
- つないだ機器からの音声出力信号のチャンネル数やサンプリング周波数が切り換えられた場合、音声が途切れることがあります。
- つないだ機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI TV出力端子の映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、つないだ機器の仕様をご確認ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。
- 本機での入力選択にかかわらず、HDMI TV出力端子からは前回選択された入力端子の映像信号が出力されています。

準備3b：HDMI端子がない機器をつなぐ

HDMI端子がないDVDプレーヤー（レコーダー）、衛星放送チューナー、ビデオデッキなどの機器をつなぐとき、本機は接続の組み合わせができます。本機は映像信号をアップコンバートする機能を搭載しています。詳しくは「映像信号をアップコンバートする」（32 ページ）をご覧ください。

テレビをつなぐ

本機につながれた映像再生機器からの映像を、テレビ、プロジェクターなどで表示できます。



Ⓐ光デジタルコード（付属）
Ⓑアナログ音声コード（別売）
Ⓒコンポーネントビデオコード（別売）

⇨：信号の流れ

ご注意

- テレビやプロジェクターなど映像を出力する機器は、モニター出力端子につないでください。
- 本機の電源が入っているときに、再生機器の映像と音声は本機を通してテレビに出力されます。本機の電源が入っていないときは、映像と音声信号はテレビに送られません。

ちょっと一言

- 本機の割り当て可能音声入力端子を使って、アナログ音声入力を他のファンクションに割り当てることができます。詳しくは「アナログ音声入力を割り当てる」（69 ページ）をご覧ください。
- モニター出力端子とテレビをつないでいるとき、選択した入力の映像を見ることができます。
- 本機のスピーカーからテレビの音声を出力するには、
  — 本機の光TV入力端子とテレビの音声出力端子をつないでください。
  — テレビの音声を切るか、消音してください。

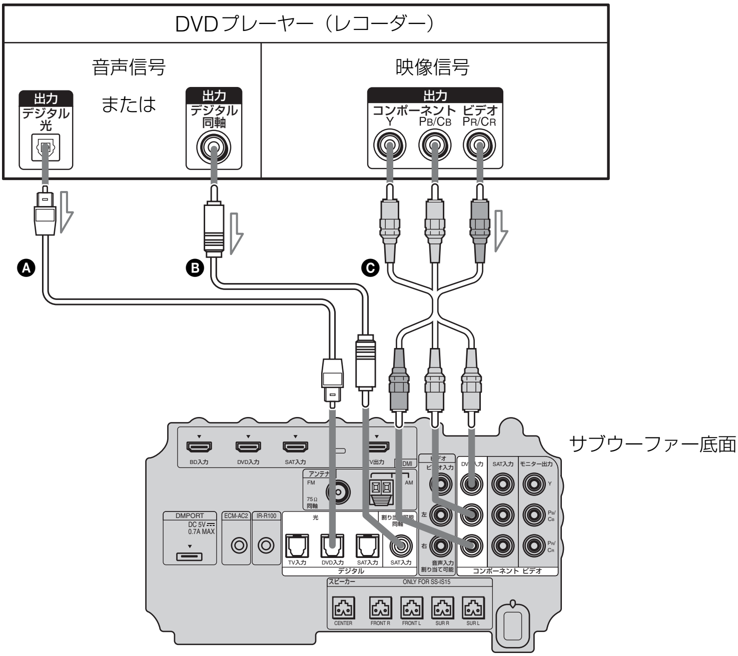
次のページへつづく

DVDプレーヤー（レコーダー）をつなぐ

次の図のように本機とDVDプレーヤー（レコーダー）をつないでください。

ちょっと一言

- 本機の割り当て可能同軸SAT入力端子を使って、デジタル音声入力を他のファンクションに割り当てることができます。詳しくは「デジタル音声入力を割り当てる」（70 ページ）をご覧ください。

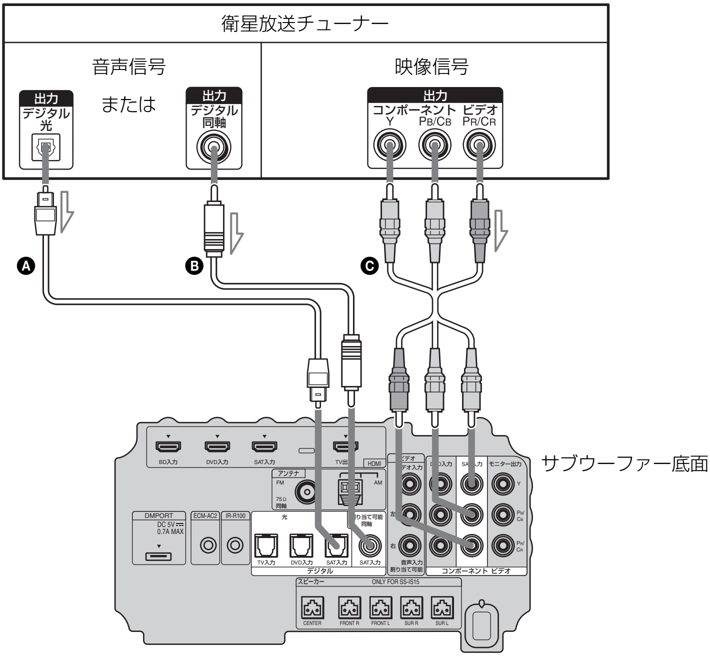


A光デジタルコード（別売）
B同軸デジタルコード（別売）
Cコンポーネントビデオコード（別売）

：信号の流れ

衛星放送チューナーをつなぐ

次の図のように本機と衛星放送チューナーをつないでください。
お使いの衛星放送チューナーに光デジタル出力端子がないときは、本機の同軸SAT入力端子につないでください。



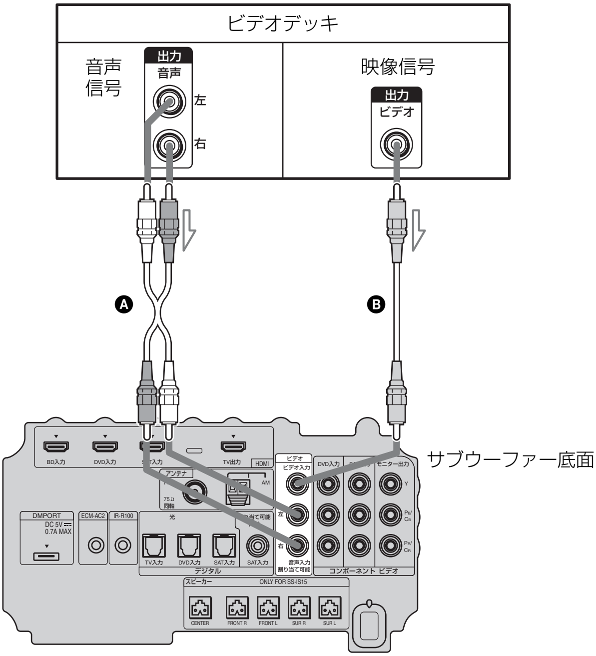
Ⓐ光デジタルコード（別売）
Ⓑ同軸デジタルコード（別売）
Ⓒコンポーネントビデオコード（別売）

：信号の流れ

次のページへつづく

ビデオデッキをつなぐ

次の図のように本機とビデオデッキをつないでください。



Aアナログ音声コード（別売）
B映像コード（別売）

：信号の流れ

準備4：アンテナをつなぐ

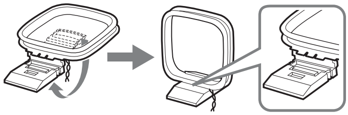
AMループアンテナをつなぐには

アンテナはAM放送を受信しやすい形状、長さになっています。はずしたり、丸めたりしないでください。

1 ループ（〰）になっている部分のみをプラスチックスタンドからはずす。

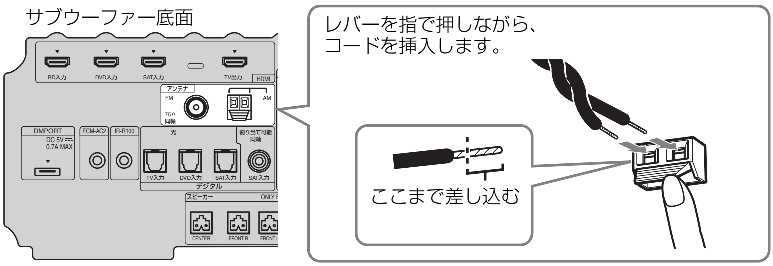
2 組み立てる。

台を起こし、溝に差しこみます。



3 AMアンテナ端子にアンテナコードをつなぐ。

コードはどちらの端子にもつなぐことができます。



ご注意

- 雑音の原因になるため、AMループアンテナは本機や他のAV機器の近くに置かないでください。

ちょっと一言

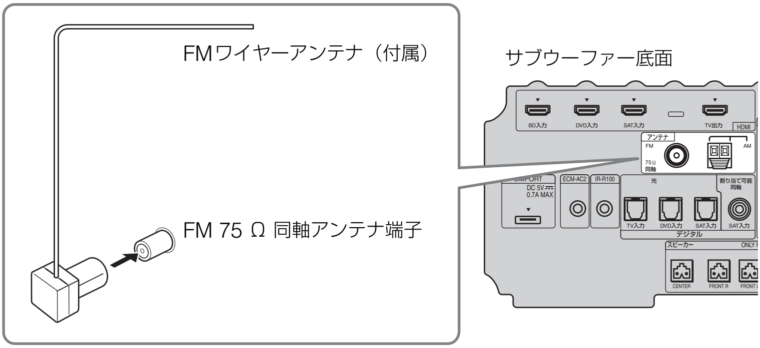
- AM放送の受信状態が良くないときは、付属のAMループアンテナの向きや位置を受信状態の良い方向や位置へ変えてください。

4 アンテナコードを軽く引いてみて、しっかりつながれたことを確認する。

次のページへつづく

FMワイヤーアンテナをつなぐには

FMワイヤーアンテナをFM 75 Ω 同軸アンテナ端子につなぎます。

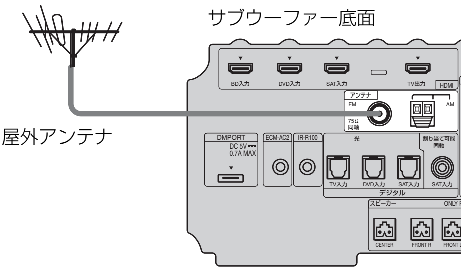


ご注意

- FMワイヤーアンテナをつないだ後は、受信状態の良い向きを探してください。
- FMワイヤーアンテナを壁にはるときは、受信状態の良い壁面を探してください。
- FMワイヤーアンテナは束ねたまま使わないでください。
- FMワイヤーアンテナは奥まで確実に差し込んでください。

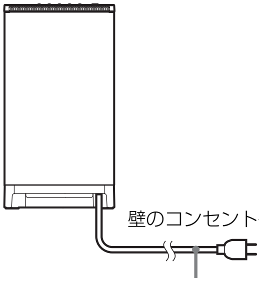
ちょっと一言

- FM放送の受信状態が良くないときは、市販の75Ω同軸ケーブルを使って、本機と屋外アンテナをつなぎます。



準備5：電源コードをつなぐ

すべてのスピーカーをつないでから（18ページ）、サブウーファーの電源コードを壁のコンセントにつないでください。



ご注意

- 電源コードをつないで約20秒待ってから、リモコンの電源ボタンまたはサブウーファーの I/⏻（電源）ボタンを押して電源を入れてください。
- 本機は、コンセントの近くでお使いください。ご使用中不具合が生じた時は、すぐにコンセントから電源コードを抜き、電源を遮断してください。

準備6：自動でスピーカーを設定する

（自動音場補正機能）

D.C.A.C.（Digital Cinema Auto Calibration（自動音場補正））機能によって、自動的に以下の項目を測定します。

- 各スピーカーと本機の接続
- スピーカーのレベル
- スピーカーの距離
- 周波数特性＊

＊ サンプリング周波数が96kHzより高い信号を受信しているときは、測定結果は反映されません。

D.C.A.C.機能によって、自動的に最適な音声バランスを設定します。
なお、手動でお好みのスピーカーのレベルとバランスを設定することもできます。詳しくは、「各スピーカーのレベルやバランスを調節する」（61ページ）をご覧ください。

測定の準備をする

スピーカーを設置、接続してから、測定してください（18ページ）。
測定の前に、以下についてご注意ください。

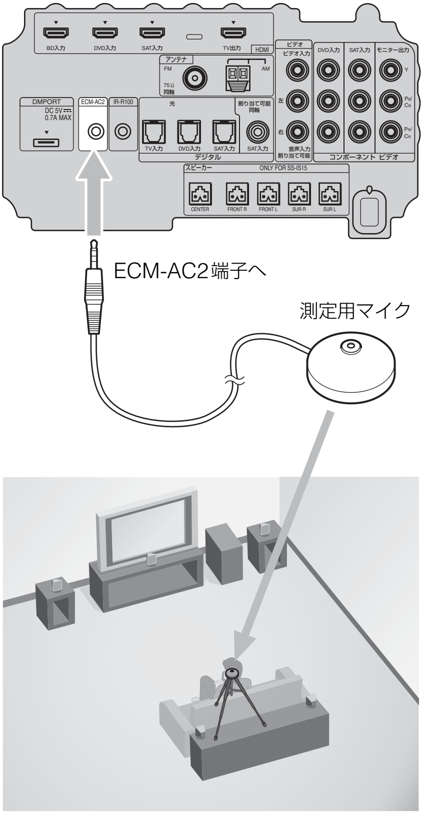
- ECM-AC2端子は付属の測定用マイク専用です。他のマイクはつながないでください。本機やマイクの故障の原因になります。
- 測定中は大きな測定音が出ます。音量は調整できません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。
- 測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。
- スピーカーとマイクの間に障害物があると正しく測定できません。測定開始前に測定エリア（機器の設置エリア）の外側に出てください。

次のページへつづく

ご注意

- 消音機能を設定していても、測定が始まると自動的に解除されます。

サブウーファー底面



1 測定用マイク（付属）をECM-AC2端子につなぐ。

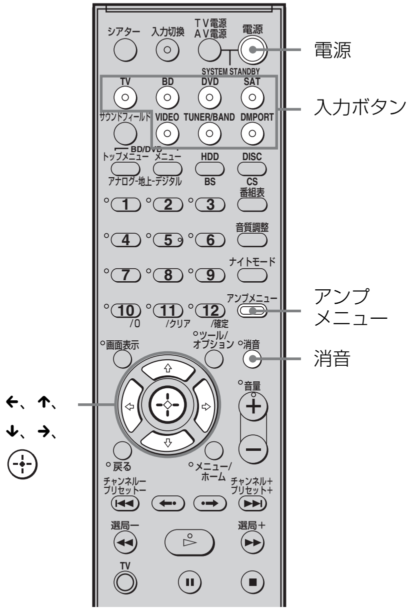
2 マイクを設置する。

マイクは実際に視聴する位置に設置します。耳と同じ高さになるように、台や三脚を使って固定してください。

ちょっと一言

- スピーカーをマイクの方へ向けると、さらに正確な測定をすることができます。

測定する

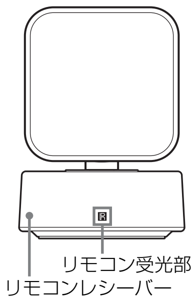


1 電源ボタンを押す。

本機の電源が入ります。

2 アンプメニューボタンを押す。

リモコンは、リモコンレシーバーのリモコン受光部（🅁）に向けて操作してください。



3 ↑/↓を繰り返し押して、表示窓で「A. CAL MENU」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を繰り返し押して、「A. CAL START」を選び、⊕を押す。

カウントダウン後に測定が始まります。測定時間は約30秒です。測定が始まると、以下の項目が表示されます。

測定項目	表示
スピーカーの有無	TONE
スピーカーの増幅率、距離、周波数特性	T.S.P.
サブウーファーの増幅率、距離	SUBWOOFER

ご注意

- 「CHECK MIC」が表示されたとき、測定はできません。測定用マイクをつなぎ、再度行なってください。

ちょっと一言

- 測定が始まったら、測定の妨げにならないよう、スピーカーやリスニングポジションから離れてください。測定中はテスト信号がスピーカーから出力されます。
- 正確な測定をするため、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。

測定を中止するには

測定中に以下の操作をすると、測定が中止されます。

ー消音ボタンを押す。

ーリモコンの入力ボタンまたは本体のINPUT SELECTORを押す。

ーボリュームを変更する。

測定結果を確認/保存する

1 測定結果を確認する。

測定が終わると終了音が鳴り、測定結果が表示されます。

表示	説明
SAVE EXIT	測定結果を保存して、設定を終了します。
WRN CHECK	測定結果に関する注意事項を表示します。詳しくは、「「WRN CHECK」を選んだときは」（30ページ）をご覧ください。
DIST INFO	スピーカーの距離について測定結果を表示します。
LEVEL INFO	スピーカーのレベルについて測定結果を表示します。
EXIT	測定結果を保存せずに、設定を終了します。

ご注意

- 「SAVE EXIT」表示状態で50秒経過すると、保存操作をしなくても、測定結果が自動的に保存されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して項目を選び、⊕または→を押す。前の項目に戻るときは、戻るボタンまたは←を押す。

3 測定結果を保存する。

手順2で「SAVE EXIT」を選び、⊕を押します。

測定結果が保存されます。

エラーが出たときは

エラー原因の対策をして、再測定してください。

次のページへつづく

エラーの種類	原因と対策
ERROR 32	• 測定用マイクの入力レベルが過大です。 • 測定用マイクまたは本機の故障が考えられます。 お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様相談センターにお問い合わせください。
ERROR F 33	フロントスピーカーが接続されていません。フロントスピーカーが正しくつながれているか確認してください。
ERROR SR 33	左か右どちらかのサラウンドスピーカーが接続されていません。サラウンドスピーカーが正しくつながれているか確認してください。
ERROR SW 33	本機の故障が考えられます。 お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様相談センターにお問い合わせください。

「WRN CHECK」を選んだときは

測定結果に注意事項があった場合、詳しい情報を表示します。

注意事項	説明
WARNING 40	測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。再測定を行うと測定できる場合もありますが、すべての環境で測定ができるとは限りません。できるだけ、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。
WARNING 41 WARNING 42	測定用マイクからの入力が過大です。スピーカーと測定用マイクの距離が近すぎることが考えられます。マイクとスピーカーの距離を離してから再測定してください。
WARNING 43	サブウーファーの距離・位置が測定できませんでした。ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。
NO WARNING	注意事項の情報はありません。

「DIST INFO」または「LEVEL INFO」を選んだときは

スピーカーの距離またはスピーカーのレベルを確認できます。

ご注意

- 本機にスピーカーがつながれていないと測定された場合は、スピーカーの測定結果が出ないことがあります。

測定が終わったら

測定用マイクを抜いてください。

ご注意

- スピーカーの設置位置を変更したときは、測定をやり直してください。

測定結果を消去する

保存した測定結果を消去することができます。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、表示窓で「A. CAL MENU」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して「A. CAL CLEAR」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して「YES」を選び、⊕を押す。

保存した測定結果が消去されます。
スピーカーの距離とスピーカーのレベルは、初期値に戻ります。

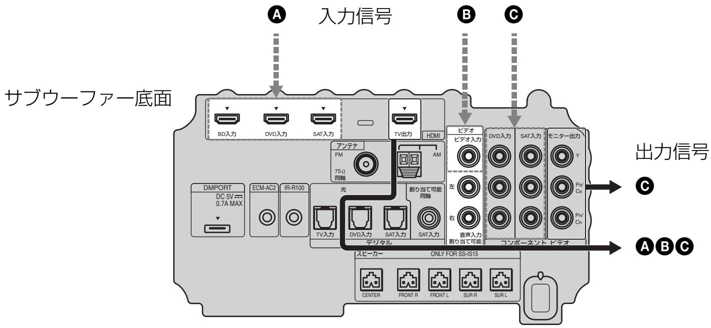
つないだ機器の音声出力を設定する

つないだ機器の音声出力設定によっては、2チャンネルの音声フォーマットとしてのみ、音声が出力されることがあります。この場合、マルチチャンネルの音声フォーマット（PCM、DTS、Dolby Digital）で音声を出力するように、つないだ機器を設定してください。音声出力の設定については、つないだ機器の取扱説明書をご覧ください。

映像信号をアップコンバートする

本機は映像信号をアップコンバートすることができます。
ビデオ信号とコンポーネントビデオ信号はHDMIビデオ信号として処理されます。アップコンバートされた映像信号はHDMI TV出力端子からのみ出力されます。詳しくは次の図をご覧ください。

映像入力/出力のコンバート図



出力端子 ＼ 入力端子	HDMI TV出力	コンポーネントビデオ（モニター出力）
HDMI入力Ⓐ	○	×
ビデオ入力Ⓑ	◎	×
コンポーネントビデオ（入力）Ⓒ	◎	○

◎：本機の映像コンバーターにより、アップコンバートされた映像信号が出力されます。
○：入力信号と同じ種類の信号が出力されます。映像信号はアップコンバートされません。
×：映像信号は出力されません。

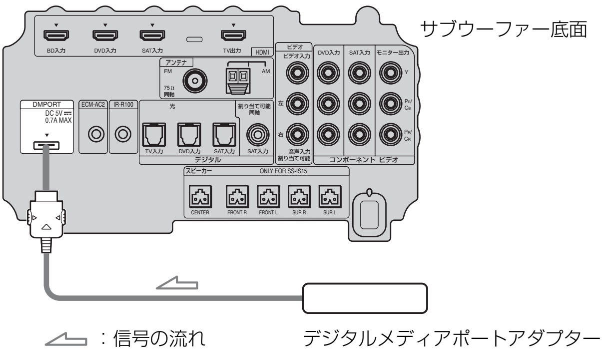
コンバートされた映像信号についてのご注意

- ビデオデッキなどの映像信号は本機でアップコンバートされ、テレビに出力されます。映像信号の状態によっては、テレビの映像が横に乱れたり、何も映らないことがあります。
- HDMIの映像信号はコンポーネントビデオ信号にコンバートされません。
- アップコンバートされた映像信号はHDMI TV出力端子からのみ出力されます。他の映像出力端子からは出力されません。
- TBC（タイムベースコレクター）などの映像補正機能を持つビデオデッキの場合、映像が乱れたり、何も映らないことがあります。この場合、映像補正機能をオフ（切）にしてください。

その他の機器をつなぐ

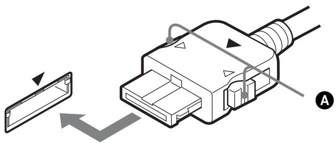
デジタルメディアポートアダプターをつなぐ

デジタルメディアポート端子（DMPORT端子）につないだ機器の音声を本機で楽しむことができます。



ご注意

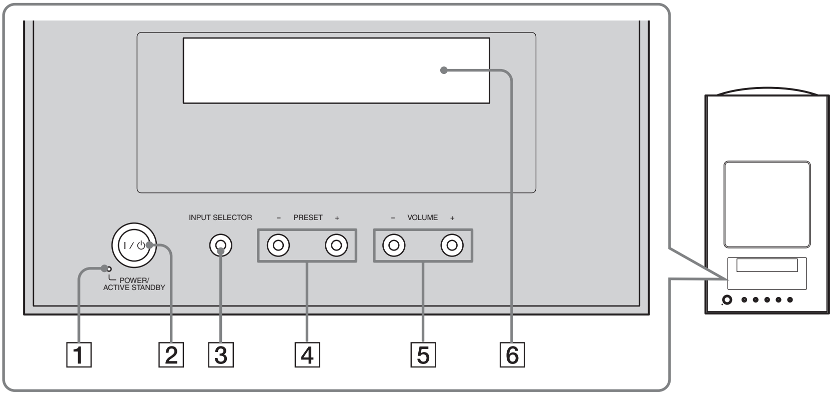
- 本機の電源が入っているときは、デジタルメディアポートアダプターを抜き差ししないでください。
- デジタルメディアポートアダプターを差し込むときは、コネクターとデジタルメディアポート端子（DMPORT端子）の矢印が向かい合っていることを確認してください。デジタルメディアポートアダプターを取り外すときは、Ⓐを押しながらコネクターを抜いてください。



各部の名前と働き

詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

本体天面



1 POWER / ACTIVE STANDBYランプ
緑：電源が入っているとき。
オレンジ：電源が切れており、HDMI機器制御機能がオン（入）のとき。
消灯：電源が切れており、HDMI機器制御機能がオフ（切）のとき。

2 **I/⏻（電源）ボタン**
本機の電源を入／切します。

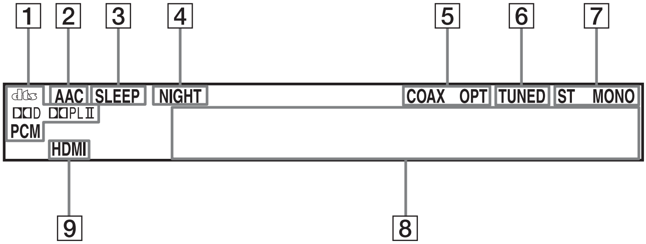
3 INPUT SELECTOR**（入力切換）ボタン**
再生する入力ソースを選びます。

4 PRESET **－／＋ボタン**
登録したラジオの放送局の中から、聞きたい放送局を選びます。

5 VOLUME**（音量）－／＋ボタン**
本機の音量を調節します。

6 **表示窓**
本機の状態を表示します。

表示窓に点灯する項目と働き



1 **入力した音声信号にあわせて点灯します。**

2 AAC（63）
AAC受信時に点灯します。

3 SLEEP（68）
スリープタイマーを設定したときに点滅します。

4 NIGHT（43）
ナイトモードのときに点灯します。

5 COAX／OPT
同軸（COAX）入力または光（OPT）入力のうち、現在使われている音声入力が点灯します。

6 TUNED（50）
ラジオ受信中に点灯します。

7 ST／MONO（51）
ラジオを受信したとき、ステレオまたはモノラルのうち、現在使われている音声入力が点灯します。

8 **本機の状態を表示します。**
ラジオの周波数やサウンドフィールドなどを表示します。

9 HDMI（19、72）
HDMI対応機器を使っているときに点灯します。

再生

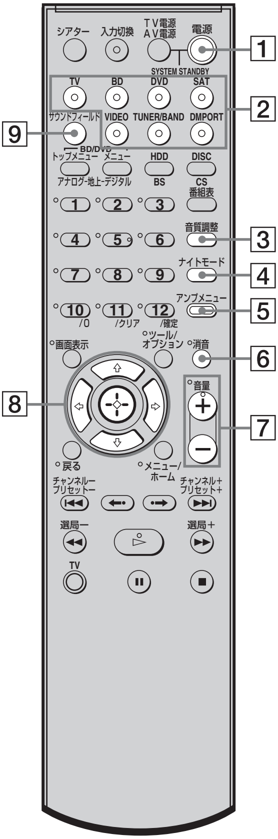
次のページへつづく

リモコン

付属のリモコンを使って、本機の操作ができます。また、つないだ機器の操作については54ページをご覧ください。

ご注意

- リモコンは、リモコンレシーバーのリモコン受光部（🅁）に向けてお使いください。



＊ 数字ボタンの5、および ▷ ボタン、音量 ＋ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

1 **電源ボタン**

本機の電源を入／切します。

省電力モード（スタンバイモード）にするには

リモコンの電源ボタンまたは本機のI/⏻（電源）ボタンを押す。

省電力モードにするときは、「CTRL: HDMI」が「CTRL OFF」に設定されていることを確認してください（45ページ）。

省電力モードを解除するには、もう一度リモコンの電源ボタンまたは本機のI/⏻（電源）ボタンを押す。

2 **入力ボタン**

使用する機器を選びます。

工場出荷時は、ソニー製機器の操作ができるよう設定されています。お使いの機器に合わせて設定を変更することができます。詳しくは「お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する」（57ページ）をご覧ください。

3 **音質調整ボタン**

音声の低域、中域、高域を調整します（42ページ）。

4 **ナイトモードボタン**

ナイトモードのオン（入）／オフ（切）を切り換えます（43ページ）。

5 **アンプメニューボタン**

本機のメニューを表示します（58ページ）。

6 **消音ボタン**

消音します。

7 **音量＋／ー**

音量を調節します。

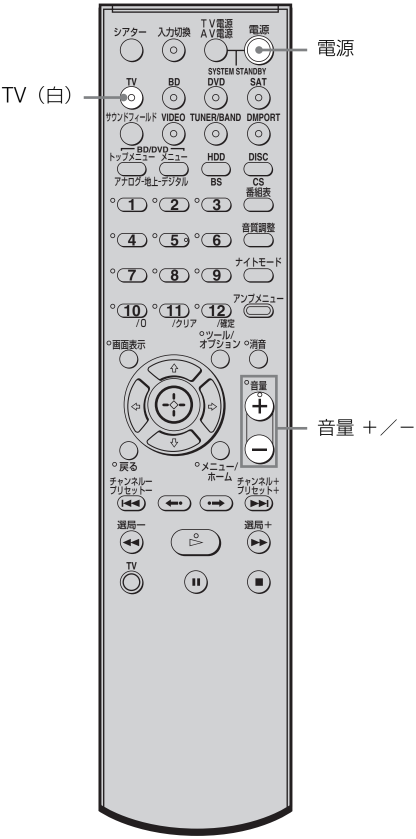
8 **←、↑、↓、→、⊕**

←、↑、↓、→を押して設定を選び、⊕で決定します。

9 **サウンドフィールドボタン**

お好みのサウンドフィールドを選びます（40ページ）。

テレビの音声を聞く



1 テレビの電源を入れて、番組を選ぶ。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

2 本機の電源を入れる。

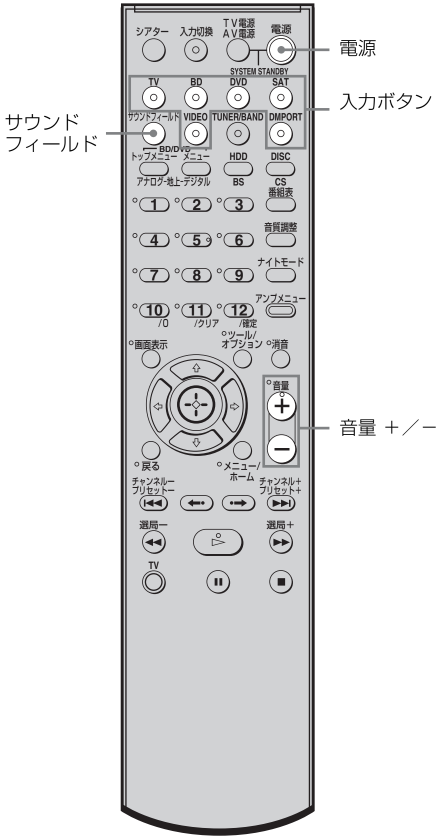
3 リモコンのTV（白）ボタンを押す。

4 音量＋／－ボタンで音量を調節する。

ちょっと一言

- ソニー製テレビをつないでいる場合、TV（白）ボタンを押すだけで、自動的にテレビの音声入力を切り換え、テレビの映像を表示します。設定を変えるときは、「お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する」（57ページ）をご覧ください。
- テレビのスピーカーからも音が出ていることがあります。この場合は、テレビの音量を最小にしてください。

つないだ機器の音声を聞く



衛星放送チューナーの音声を楽しむ

1 テレビの電源を入れる。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

2 衛星放送チューナーと本機の電源を入れる。

3 リモコンのSATボタンを押す。

4 テレビの入力を切り換える。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

5 音量＋／－ボタンで音量を調節する。

ちょっと一言

- テレビのスピーカーからも音が出ていることがあります。この場合は、テレビの音量を最小にしてください。

ブルーレイディスク／DVD／“プレイステーション3”を楽しむ

1 テレビの電源を入れる。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

2 ブルーレイディスク／DVDプレーヤー（レコーダー）、または“プレイステーション 3”と本機の電源を入れる。

3 リモコンのBDまたはDVDボタンを押す。

4 テレビの入力を切り換える。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

5 ディスクを再生する。

ちょっと一言

- Dolby True HD、Dolby Digital Plus、DTS-HDに対応した接続機器で、これらの音源を再生しても、本機はDolby DigitalまたはDTSとして対応します。HDMIケーブルでつないでいる場合、これらの高品質サウンドフォーマットを聞くとき、可能であれば接続機器の出力設定をマルチチャンネルPCMにしてください。

ビデオを楽しむ

1 テレビの電源を入れる。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

2 ビデオデッキと本機の電源を入れる。

3 リモコンのVIDEOボタンを押す。

4 テレビの入力を切り換える。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

5 ビデオを再生する。

デジタルメディアポート端子（DMPORT端子）につないだ機器を楽しむ

1 リモコンのDMPORTボタンを押す。

2 つないだ機器を再生する。

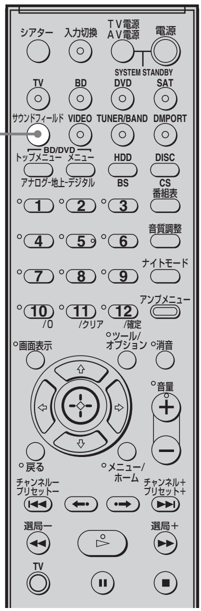
ちょっと一言

- 本機につないだ携帯用ミュージックプレーヤーで、MP3音声トラックや、その他の圧縮された音声ファイルを聞くと、音を増強することができます。サウンドフィールドボタンを繰り返し押して、「P. AUDIO」を表示窓に表示させてください。

サラウンド効果を楽しむ

サウンドフィールドを選ぶ

本機ではマルチチャンネルサラウンド効果を楽しむことができます。お好みのサウンドフィールドを選んでください。



サウンドフィールドでサラウンド効果を楽しむ

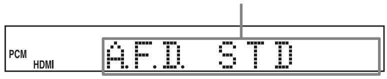
サウンドフィールドボタンを押す。

表示窓に現在のサウンドフィールドが表示されます。

サウンドフィールドボタンを押すたびに、サウンドフィールドの表示は次のように切り替わります。

A.F.D. STD → A.F.D. MULTI → PLII MOVIE → PLII MUSIC → SPORTS → NEWS → P. AUDIO → OMNI-DIR → A.F.D. STD → ...

サウンドフィールドボタンを繰り返し押して、お好みのサウンドフィールドを表示させます。



サウンドフィールドの種類

サウンドフィールド	サウンドフィールド表示窓の表示
AUTO FORMAT DIRECT STANDARD	A.F.D. STD
AUTO FORMAT DIRECT MULTI	A.F.D. MULTI
Dolby Pro Logic II MOVIE	PLII MOVIE
Dolby Pro Logic II MUSIC	PLII MUSIC
SPORTS	SPORTS
NEWS	NEWS
PORTABLE AUDIO ENHANCER	P. AUDIO
OMNI-DIRECTIONAL SOUND	OMNI-DIR

入力された音声をそのまま再生する

■ AUTO FORMAT DIRECT STANDARD（オートフォーマットダイレクトスタンダード）

オートデコーディング機能は、入力された音声信号の種類を自動的に識別し（ドルビーデジタル、DTS、標準的な2チャンネルステレオなど）、必要に応じて適切なデコード処理を行います。このモードは何も音場効果（残響音など）を加えずに、録音された、またはエンコードされたままの音を再現します。
また、低周波数の音声信号（ドルビーデジタルLFEなど）がない場合は、低周波数の音声信号がサブウーファーへの出力用につくられます。

複数のスピーカーから音声を出力する

■ AUTO FORMAT DIRECT MULTI（オートフォーマットダイレクトマルチ）

ディスクの種類に関わらず、複数のスピーカーから音声を出力します。

ご注意
- ソースによっては、複数のスピーカーから音が出ない場合があります。
- 再生するディスクによっては、最適な効果を自動的に選択するため、音声の始まりが途切れる場合があります。音声を途切れないようにするには、「A.F.D. STD」を選んでください。

CDなどの2チャンネルソースを5.1チャンネルで出力する

■ Dolby Pro Logic II MOVIE/MUSIC（ドルビープロロジックIIムービー / ミュージック）

サラウンド効果を再現するために2チャンネルの音声信号を、ドルビープロロジックII処理をして5チャンネルに振り分けます。ドルビープロロジックIIは、ドルビープロロジックよりさらに空間的に広がりを持ったサラウンド効果を、特別なサウンドを加えずに実現したものです。

ご注意
- マルチチャンネルのソースを入力しているときは、Dolby Pro Logic II MOVIE/MUSICはキャンセルされ、マルチチャンネルの音声信号はそのまま出力されます。

ソースに合わせてサラウンドを楽しむ

■ SPORTS（スポーツ）

解説が聞き取りやすく、歓声などがサラウンドで聞こえ、臨場感が楽しめます。

■ NEWS（ニュース）

解説者の声が聞き取りやすいクリアな音声です。

■ PORTABLE AUDIO ENHANCER（ポータブルオーディオエンハンサー）

携帯用ミュージックプレーヤーで再生されるMP3などの圧縮されたソースに適しています。

ご注意
- 「P. AUDIO」にマルチチャンネルのリニアPCMの効果は得られません。

■ OMNI-DIRECTIONAL SOUND（オムニディレクショナルサウンド）

サテライトスピーカーに囲まれた空間の中はどこでも、どこを向いても、ステレオ効果を体感することができます。パーティなどのBGMに適しています。

サラウンド効果を消すには

サウンドフィールドボタンを繰り返し押して、表示窓に「A.F.D. STD」を表示させる。

次のページへつづく

ちょっと一言

- 電源コードを抜いても、本機は各ファンクションで最後に選んだサウンドフィールドを記憶します。DVDファンクションやチューナーファンクションなどを選ぶと、最後に選んだサウンドフィールドが再び自動的に適応されます。例えば、DVDの音声をDolby Pro Logic II MOVIEのサウンドフィールドで聞いていた場合、他のファンクションを選んでからDVDに戻ると再びDolby Pro Logic II MOVIEが適応されます。
- 「CTRL: HDMI」を「ON」に設定した状態で、アンプメニューの「SOUND.FIELD」の設定を「AUTO」に設定すると、テレビ番組のジャンルに合ったサウンドフィールドに、自動的に切り替わります（47ページ）。

音質を調整する

音声の低域、中域、高域のレベルを簡単に調整することができます。



音質調整

↑、↓、

1 音質調整ボタンを繰り返し押して、表示窓に「BASS」、「MIDDLE」または「TREBLE」を表示させる。

- BASS: 音声の低域を調整します。（－6.0～＋6.0まで、0.5 dBずつ調整可能）
- MIDDLE: 音声の中域を調整します。（－6.0～＋6.0まで、0.5 dBずつ調整可能）
- TREBLE: 音声の高域を調整します。（－6.0～＋6.0まで、0.5 dBずつ調整可能）

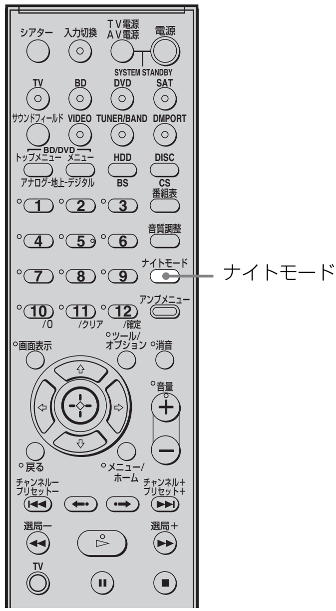
2 ↑/↓で調整する。

調整した値は表示窓に表示されます。

3 ⊕を押す。

小さな音量で聞く（ナイトモード）

夜遅くに映画を見るときでも、劇場のような音響効果や台詞を明瞭に聞き取れるようにします。



ナイトモードボタンを押す。

「NIGHT」が表示窓に点灯し、サウンド効果が適応されます。

ナイトモードを解除するには

ナイトモードボタンをもう一度押す。

ブラビアリンク機能とは？

HDMI機器制御機能（ブラビアリンク）に対応しているソニー製品をHDMIケーブル（別売）でつなぐと、下記のように操作を簡単に行うことができます。

- ワンタッチプレイ：ブルーレイディスク／DVDプレーヤー（レコーダー）などの機器を再生すると、本機とテレビの電源が自動的に入り、HDMI入力に切り替わります。
- システムオーディオコントロール：テレビの視聴中、音声の出力をテレビのスピーカーで行うか、本機のスピーカーで行うかを選ぶことができます。
- 電源オフ連動：テレビの電源を切ると、本機とつないだ機器の電源も同時に切ることができます。
- オートジャンルセレクター：デジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り替わります。

ブラビアリンクは、HDMI機器制御を搭載したソニーのテレビやブルーレイディスク／DVDプレーヤー、AVアンプなどに対応しています。

HDMI機器制御は、CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

次の場合、HDMI機器制御機能は作動しません。

- 本機をHDMI機器制御機能（ブラビアリンク）に対応していない機器につないだとき。
- 本機と各機器をHDMIでつないでいないとき。

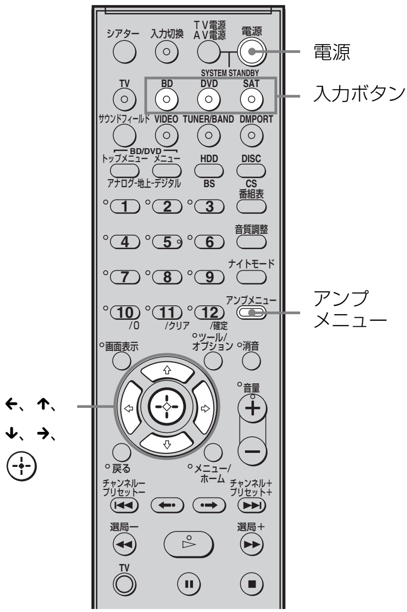
本機には、ブラビアリンクに対応した機器を接続することをおすすめします。

ご注意

- つないだ機器によっては、HDMI機器制御機能が作動しないことがあります。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

ブラビアリンクの準備をする

ブラビアリンクを使うには、本機とつないだ機器のHDMI機器制御機能をオン（入）に設定して下さい。HDMI機器制御機能に対応しているソニー製テレビをお使いの場合、テレビのHDMI機器制御機能の設定を行うと、本機やつないだ機器のHDMI機器制御機能も連動して設定されます。



1 本機とテレビ、再生機器がHDMIケーブル（別売）でつながれていることを確認する。（各機器はHDMI機器制御機能に対応している必要があります。）

2 本機とテレビ、再生機器の電源を入れる。

3 再生機器の映像がテレビに映るように、テレビのHDMI入力と本機の入力（BD、DVDまたはSAT）を切り換える。

4 テレビのHDMI機器制御機能をオン（入）に設定する。

本機と再生機器側のHDMI機器制御機能が同時にオン（入）に設定されます。設定中は「SCANNING」が表示窓に表示され、設定が完了すると、表示窓に「COMPLETE」が表示されます。

「SCANNING」、「COMPLETE」が表示されないときは

本機と再生機器のHDMI機器制御を個別にオン（入）に設定してください。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「SET HDMI」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「CTRL：HDMI」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、「CTRL ON」を選び、⊕または→を押す。

次のページへつづく

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。HDMI機器制御機能がオン（入）になります。

6 再生機器のHDMI機器制御機能をオン（入）にする。

再生機器の設定については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

7 HDMI機器制御機能を使いたい再生機器の入力（BD、DVDまたはSAT）を本機で選び、手順6を繰り返す。

本機に再生機器を追加する、またはつなぎ直すときは

「ブラビアリンクの準備をする」や「「SCANNING」、「COMPLETE」が表示されないときは」の手順をもう一度行ってください。

ご注意

- 本機のHDMI機器制御機能の設定中は、システムオーディオコントロール機能は作動しません。
- テレビの「HDMI機器制御機能」によって、再生機器のHDMI機器制御機能を同時に設定できない場合は、再生機器のメニューからHDMI機器制御機能を設定してください。
- テレビや再生機器の設定については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- お買い上げ時の本機のHDMI機器制御機能は、オフ（切）に設定されています。

ブルーレイディスクやDVDを楽しむ

（ワンタッチプレイ）

つないだ機器を再生する。

本機とテレビの電源が自動的に入り、HDMI入力に切り替わります。

ご注意

- テレビによっては、コンテンツの開始部分が出力されないことがあります。

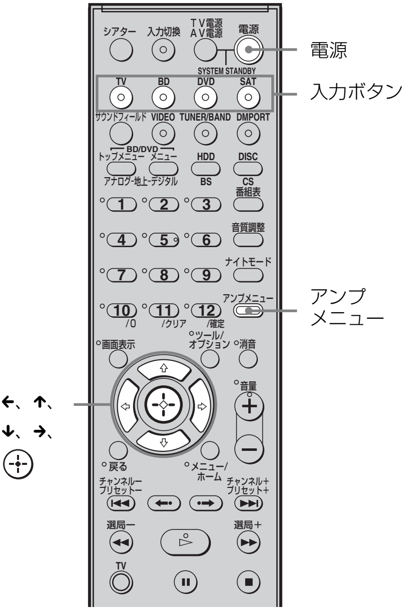
ちょっと一言

- 本機の電源を切っても、本機につながれたブルーレイディスク／DVDプレーヤー（レコーダー）を楽しむことができます。このときは、POWER / ACTIVE STANDBYランプがオレンジに点灯します。

テレビの音声を本機のスピーカーで楽しむ

（システムオーディオコントロール）

簡単な操作で、テレビの音声を本機のスピーカーから楽しむことができます。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。



本機の電源を入れる。

本機のスピーカーから音声が出ます。本機の電源を切ると、テレビのスピーカーから音声が出ます。

ご注意

- 本機の電源を入れる前にテレビの電源が入っている場合、テレビの音声がしばらく途切れることがあります。

ちょっと一言

- テレビのリモコンを使って、本機の音量を調節したり、消音することができます。

デジタル放送のジャンルに応じて、サラウンド効果を自動的に切り換える（オートジャンルセレクター）

視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます（オートジャンルセレクター対応のテレビをお使いの場合のみ）。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「SET HDMI」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「SOUND.FIELD」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。

- 「AUTO」：デジタル放送のテレビ番組に応じてサウンドフィールドが自動的に切り替わります。
- 「MANUAL」：サウンドフィールドボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

番組情報対応表

番組情報（EPG情報）	オートジャンルセレクターで切り替わるサウンドフィールド
ニュース／報道	NEWS

次のページへつづく

番組情報（EPG情報）	オートジャンルセレクターで切り替わるサウンドフィールド
スポーツ	SPORTS
情報／ワイドショー	A.F.D. STD
ドラマ	A.F.D. STD
音楽	PLII MUSIC
バラエティ	A.F.D. STD
映画	PLII MOVIE
アニメ／特撮	A.F.D. STD
ドキュメンタリー	A.F.D. STD
劇場／公演	PLII MUSIC
趣味／教育	NEWS
福祉	NEWS
その他	A.F.D. STD
スポーツ（CS）	SPORTS
洋画（CS）	PLII MOVIE
邦画（CS）	PLII MOVIE
情報なし	前回のサウンドフィールドが保持されます。

ご注意

- 番組情報（EPG情報）に応じてサウンドフィールドが切り替わるとき、音が途切れることがあります。
- オートジャンルセレクターは、HDMI機器制御機能がオン（入）のときのみ作動します。

音量制限機能を使う

システムオーディオコントロールが作動中に、音声出力がテレビのスピーカーから本機のスピーカーに自動的に切り替わると、本機の音量レベルによっては大きな音が出ることがあります。このようなことを防ぐために、切り換えたときの本機の最大音量レベルを制限することができます。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「SET HDMI」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「VOL LIMIT」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、最大音量レベルを設定する。

最大音量レベルは次のように変わります。

MAX ↔ 49 ↔ 48 ↔
...... ↔ 2 ↔ 1 ↔ MIN

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

ご注意

- 音量制限機能は、HDMI機器制御機能がオン（入）のときのみ作動します。
- 音量制限機能は、音声出力が本機のスピーカーからテレビのスピーカーに切り替わるときは作動しません。

ちょっと一言

- 最大音量レベルは、通常お聞きの音量より少し小さくすることをおすすめします。
- 設定した最大音量レベルにかかわらず、本機と本機のリモコンで音量を調節できます。
- 最大音量レベルを制限しない場合は、音量制限を「MAX」に設定してください。

リモコンの入力ボタンを使う

HDMI機器制御機能がオン（入）のとき、入力ボタン（TV（白）、BD、DVD、SAT、VIDEO、DMPORT）は次のように作動します。

- BD、DVD、SAT、VIDEO、DMPORTボタン：押すだけで、テレビ入力も自動的に切り替わり、選んだ再生機器の映像をテレビで見ることができます。
- TV（白）ボタン：押すだけで、テレビ入力が自動的に切り替わります。ソニー製のテレビをつないでいる場合、簡単にテレビを見ることができます。

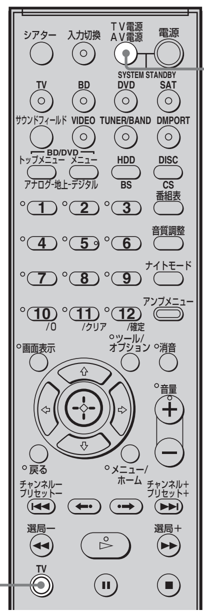
ちょっと一言

- 入力ボタンを押して、つないだソニー機器を操作することができます。詳しくは「つないだ機器をリモコンで操作する」（54ページ）をご覧ください。

テレビと本機、再生機器の電源を切る

（電源オフ連動）

テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機とつないだ再生機器の電源も自動的に切ることができます。また、本機のリモコンでテレビの電源を切ったときも、本機とつないだ再生機器の電源を自動的に切ることができます。



TV（オレンジ）ボタンを押しながら、AV電源ボタンを押す。

テレビと本機、再生機器の電源が切れます。

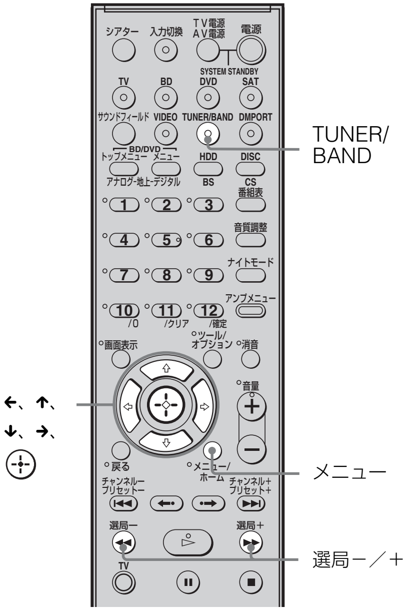
ご注意

- 状態によっては、つないだ機器の電源を切れない場合があります。詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

放送局を登録する

（プリセット）

FM局を20局とAM局を10局登録できます。受信を始める前に、音量を最小にしてください。



1 TUNER/BANDボタンを押す。

TUNER/BANDボタンを押すたびに、「FM」と「AM」が切り替わります。

2 選局＋/－ボタンを押し続け、自動選局が始まったら離す。

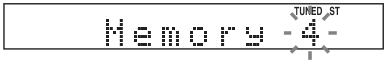
周波数表示が変わっていき、放送局を受信すると、選局が自動的に止まります。表示窓に「TUNED」、「ST」（ステレオプログラムのとき）が点灯します。

3 メニューボタンを押す。

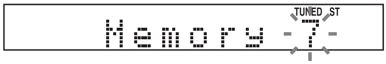
4 ↑/↓で表示窓の「Memory?」を選ぶ。

5 ⊕を押す。

プリセット番号が表示窓に表示されます。



6 ↑/↓でプリセット番号を選ぶ。



ちょっと一言

- 数字ボタンを押して、プリセット番号を選ぶこともできます。

7 ⊕を押す。

放送局が登録されます。



8 メニューボタンを押す。

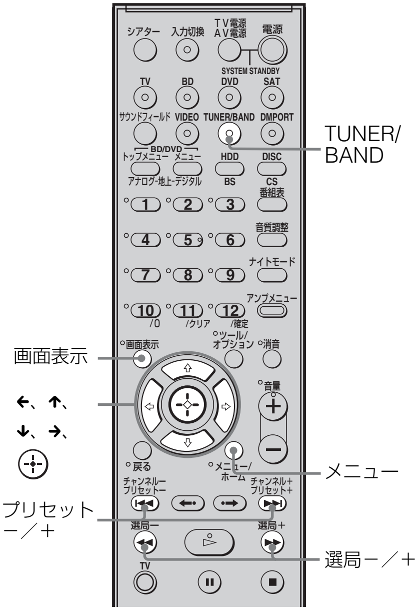
9 手順2～8を繰り返して、他の放送局を登録する。

プリセット番号を変えるには

手順3から操作をする。

ラジオを聞く

先に「放送局を登録する」（50ページ）で放送局を登録してください。



1 TUNER/BANDボタンを押す。

最後に受信した放送局が受信されます。TUNER/BANDボタンを押すたびに、「FM」と「AM」が切り替わります。

2 プリセット＋/－ボタンを繰り返し押して、登録した放送局の中から聞きたい放送局を選ぶ。

ボタンを押すごとに登録した放送局を1局ずつ探していきます。

ちょっと一言

- 数字ボタンを押して、登録した放送局の番号を選ぶこともできます。

3 音量を調節する。

ラジオを消すには

リモコンの電源ボタンまたは本機のI/⏻（電源）ボタンを押す。または他の入力ファンクションに切り換える。

登録していない放送局を聞くには

手順2で手動または自動で受信します。
手動受信は、リモコンの選局＋または－を繰り返し押します。
自動受信は、リモコンの選局＋または－を押し続けます。自動受信は放送局を受信すると自動的に停止します。自動受信を止めるときは選局＋または－を押してください。

FM放送の受信状態が良くないときには

FM放送の受信状態が良くないときは、モノラル受信を選びます。ステレオ受信ではありませんが、聞きやすくなります。

1 メニューボタンを押す。

2 ↑/↓で表示窓の「FM Mode?」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓で「MONO」を選ぶ。

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- <u>STEREO</u>：ステレオ受信にします。
- MONO：モノラル受信にします。

4 ⊕を押す。

5 メニューボタンを押す。

ちょっと一言

- 受信状態を良くするには、付属のアンテナの向きや位置を変えてみてください。

次のページへつづく

登録した放送局に名前をつける

登録した放送局に名前をつけることができます。これらの名前（「XYZ」など）は、放送局が選ばれたときに表示窓に表示されます。登録した放送局には、それぞれひとつの名前しか登録できません。
文字は10文字まで入力できます。

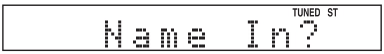
1 TUNER/BANDボタンを押す。

最後に受信した放送局が受信されます。TUNER/BANDボタンを押すたびに、「FM」と「AM」が切り替わります。

2 プリセット+/−ボタンを繰り返し押して、名前をつけたい放送局を選ぶ。

3 メニューボタンを押す。

4 ↑/↓で表示窓の「Name In?」を選ぶ。



5 ⊕を押す。

6 ←/↑/↓/→で名前をつける。

↑/↓で文字を選び、→を押してカーソルを次へ動かします。文字、数字、記号を入力することができます。

間違えて入力したときは

変更したい文字が点滅するまで、繰り返し←/→を押し、↑/↓で正しい文字を選ぶ。
文字を消すには、←/→を繰り返し押して消したい文字を点滅させ、クリアボタンを押す。

7 ⊕を押す。

表示窓に「Complete!」が表示され、放送局の名前が登録されます。



8 メニューボタンを押す。

ちょっと一言

- 画面表示ボタンを繰り返し押すと、表示窓で周波数を確認することができます（53ページ）。

表示窓で放送局の名前や周波数を見る

本機の入力ファンクションが「FM」または「AM」のとき、表示窓に周波数を表示させることができます。

画面表示ボタンを押す。

画面表示ボタンを押すたびに、表示窓は次のように切り替わります。

① 放送局名*

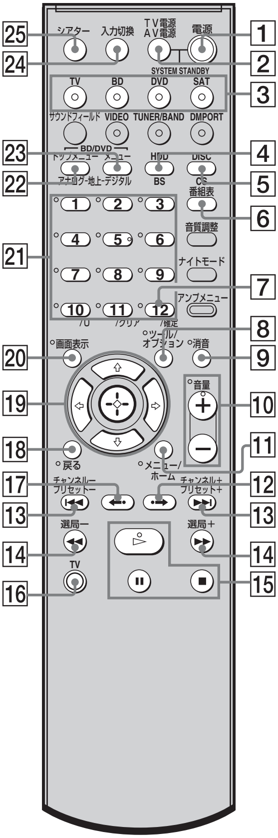
② 周波数**

* 放送局を登録して、名前をつけているときに表示されます（52 ページ）。
** 数秒経過後に放送局名表示に戻ります。

設定

つないだ機器をリモコンで操作する

ソニー製の機器を本機のリモコンで操作できます。つないだ機器によっては、操作できない場合があります。そのようなときは、つないだ機器のリモコンから操作してください。



＊ 数字ボタンの5、および ▷ ボタン、音量 +ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

つないだ機器を操作するには

1 操作したい機器を登録した入力ボタン[3]（TV、BD、DVD、SAT）を押す。

選んだ入力ボタンに登録された機器が操作できるようになります。

2 次の表を参照して、ボタンを押す。

共通する操作

ボタン	機能
[2] TV電源 AV電源（電源オン／スタンバイ）	本機のリモコンで操作ができるソニー製のテレビまたはオーディオ、ビデオの電源を入れたり、切ったりします。[1]電源ボタンと[2] TV電源／AV電源ボタンを同時に押して、本機と他の機器の電源を同時に切ります（システムスタンバイ）。
[7] 確定	選択を確定します。
[21] 数字ボタン	チャンネルやトラックを数字で選びます。

テレビを操作するには

[16] TV（オレンジ）を押しながら、オレンジ色のマークのボタンを同時に押すと、それぞれのボタンでテレビを操作することができます。

ボタン	機能
[4] BS	BSデジタル放送に切り換えます。
[5] CS	110度CSデジタル放送に切り換えます（ボタンを押すたびにCS1／CS2に切り替わります）。
[6] 番組表	地上デジタル放送で番組表を表示します。
[8] ツール／オプション	そのときできる便利な機能が一覧表示されます。
[9] 消音	消音します。

ボタン	機能
10 音量＋／－	音量を調節します。
11 メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
13 チャンネル＋／－	チャンネルを切り換えます。
18 戻る	ひとつ前の表示画面に戻ります。
19 ↑、↓、←、→、(+)	矢印ボタンでメニュー項目を選び、(+)で選んだ項目を確定します。
20 画面表示	テレビ画面上に情報を表示します。
21 数字ボタン	チャンネルを選びます。12以上のチャンネル番号を入力するときは、2桁、3桁目をすばやく押します。
22 アナログ	地上アナログ放送に切り換えます。
23 デジタル	地上デジタル放送に切り換えます。
24 入力切換	入力を切り換えます。
25 シアター	シアターボタンに対応したソニー製テレビにつないでいる場合、映画に適した設定を自動的に行ないます。また、本機とテレビをHDMI接続して、HDMI機器制御機能をオン（入）の場合、自動的に本機の音声出力に切り換えます。

ブルーレイディスクレコーダー／DVDレコーダーを操作するには

ボタン	機能
4 HDD	HDDを選びます。
5 DISC	ディスク（ブルーレイディスク／DVD）を選びます。
11 メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
12 •➡	録画中の番組を見ているときにジャンプで先に送ります。
13 ⏮	チャプターをスキップします。
⏭	次に再生可能なチャプターにジャンプします。
14 ◀◀/▶▶	再生中にディスクの早戻し／早送りをします。
15 ▷（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
17 ⬅•	現在、または録画中の番組を見ている間にジャンプで前に戻ります。
19 ↑、↓、←、→、(+)	矢印ボタンでメニュー項目を選び、(+)で選んだ項目を確定します。
22 BD／DVDトップメニュー	トップメニュー／ディスクメニューを表示します。
23 BD／DVDメニュー	
24 入力切換	入力を切り換えます。

ブルーレイディスクプレーヤー／DVDプレーヤーを操作するには

ボタン	機能
11 メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
12 •➡	ジャンプで先に送ります。
13 ⏮/⏭	チャプターをスキップします。
14 ◀◀/▶▶	再生中にディスクの早戻し／早送りをします。
15 ▷（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
17 ⬅•	ジャンプで前に戻ります。
19 ↑、↓、←、→、(+)	矢印ボタンでメニュー項目を選び、(+)で選んだ項目を確定します。

次のページへつづく

ボタン	機能
22 BD／DVDトップメニュー	トップメニュー／ディスクメニューを表示します。
23 BD／DVDメニュー	
24 入力切換	入力を切り換えます。

HDD／DVDコンボを操作するには

ボタン	機能
4 HDD	HDDを選びます。
5 DISC	DVDを選びます。
11 メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
12 •➡	ジャンプで先に送ります。
13 ⏮/⏭	チャプターをスキップします。
14 ◀◀/▶▶	再生中にディスクの早戻し／早送りをします。
15 ▷（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
17 ⬅•	ジャンプで前に戻ります。
19 ↑、↓、←、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で選んだ項目を確定します。
22 BD／DVDトップメニュー	トップメニュー／ディスクメニューを表示します。
23 BD／DVDメニュー	
24 入力切換	入力を切り換えます。

衛星放送（CSデジタル）チューナーを操作するには

ボタン	機能
6 番組表	番組表を表示します。
11 メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
13 チャンネル＋／－	チャンネルを切り換えます。

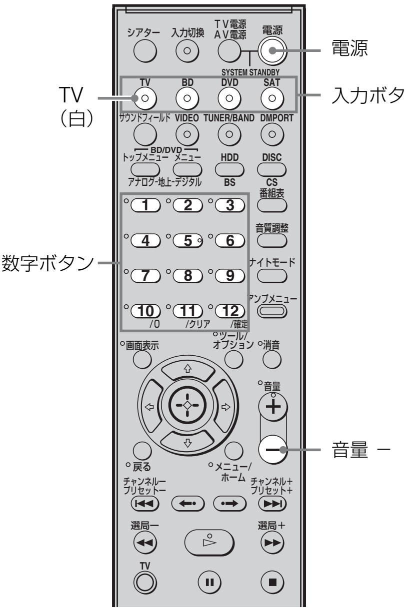
ボタン	機能
19 ↑、↓、←、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で選んだ項目を確定します。

ご注意

- 上記の説明は基本的な操作の一例です。つないでいる機器によっては操作できないか、または表とは異なった動作をする場合があります。

お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する

お使いの機器に合わせて、入力ボタンの設定を変更することができます。
例：ブルーレイディスクプレーヤーをDVD端子につないだとき、DVDボタンでブルーレイディスクプレーヤーを操作できるように設定します。
リモコンのTV（白）ボタンは、テレビ以外の機器に設定できません。



1 設定したい入力の入力ボタンを押し続ける。

例：DVDボタンを押し続ける。

2 次の表を参照して、設定したい機器のボタンを押す。

例：数字ボタンの3を押す。

DVDボタンでブルーレイディスクプレーヤーを操作できるようになります。

お使いの機器をBD、DVD、SATボタンに対応させるには

機器	数字ボタン
DVDプレーヤー（リモコンモード：DVD1）	1
DVDレコーダー（リモコンモード：DVD3）*1	2
ブルーレイディスクプレーヤー（リモコンモード：BD1）	3
ブルーレイディスクレコーダー（リモコンモード：BD3）*2	4
衛星放送（CSデジタル）チューナー *3	7
地上デジタルテレビ（地デジ）専用チューナー	8

*1 お買い上げ時は、DVDボタンに登録されています。ソニー製DVDレコーダーはDVD1またはDVD3で操作できます。詳しくは、DVDレコーダーの取扱説明書をご覧ください。
*2 お買い上げ時は、BDボタンに登録されています。BD1およびBD3について詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤーまたはブルーレイディスクレコーダーの取扱説明書をご覧ください。
*3 お買い上げ時は、SATボタンに登録されています。

お使いの機器をTV（白）ボタンに対応させるには

機器	数字ボタン
テレビ*1	5
テレビ*2	6

*1 お買い上げ時は、TV（白）ボタンに登録されています。
TV（白）ボタンを押すと、本機の入力がテレビに切り替わるとともに、テレビの入力がテレビ番組に切り替わります。
*2 TV（白）ボタンを押すと、本機の入力のみ、TVに切り替わります。

リモコンに登録した設定を消すときは

リモコンの音量－ボタン、電源ボタンを押しながら、TV（白）ボタンを押す。
リモコンの設定がお買い上げ時の状態に戻ります。

アンプメニューの設定をする

アンプメニューを使う

リモコンのアンプメニューボタンを押すと、次の設定ができます。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- SET HDMI[1)]
  - CTRL: HDMI
    - CTRL ON
    - CTRL OFF
  - VOL LIMIT[2)]
    - MAX, 49, 48…..2, 1, MIN
  - SOUND.FIELD[2)]
    - AUTO
    - MANUAL
- A. CAL MENU[3)]
  - A. CAL START
  - A. CAL CLEAR
    - YES
    - NO
- SP SETUP
  - CENTER SP
    - CENTER YES
    - CENTER NO
  - SUR SP
    - SUR YES
    - SUR NO
  - FL DIST
    - FL 3m 0cm
  - CNT DIST
    - CNT 3m 0cm
  - FR DIST
    - FR 3m 0cm
  - SR DIST
    - SR 3m 0cm
  - SL DIST
    - SL 3m 0cm
  - SW DIST
    - SW 3m 0cm
- LEVEL
  - TEST TONE
    - T. TONE ON
    - T. TONE OFF
  - FL LEVEL
    - FL 0.0
  - CNT LEVEL
    - CNT 0.0
  - FR LEVEL
    - FR 0.0
  - SR LEVEL
    - SR 0.0
  - SL LEVEL
    - SL 0.0
  - SW LEVEL
    - SW 0.0
- AUDIO
  - A. ASSIGN
    - ANALOG VD
    - ANALOG TV
    - ANALOG SAT
    - ANALOG DVD
    - ANALOG BD
  - D. ASSIGN
    - COAX SAT
    - COAX DVD
- CUST-OMIZE
  - DUAL MONO
    - MAIN
    - SUB
    - MAIN+SUB
  - A/V SYNC[4)]
    - SYNC OFF, 1, 2, …..20
  - AUDIO DRC
    - DRC MAX
    - DRC STD
    - DRC OFF
  - DIMMER
    - DIMMER ON
    - DIMMER OFF
  - DISPLAY
    - DSPL ON
    - DSPL OFF
  - SLEEP
    - SLEEP OFF, 10M, 20M, …..90M

1) 詳しくは「ブラビアリンク機能」（44ページ）をご覧ください。
2) この設定は「CTRL: HDMI」が「CTRL ON」のときに表示されます。
3) 詳しくは「準備6：自動でスピーカーを設定する」（27ページ）をご覧ください。
「A. CAL CLEAR」は自動音場補正の測定結果が保存されたときに表示されます。
4) この設定は光または同軸の入力信号のみ設定できます。

1 アンプメニューボタンを押して、アンプメニューを表示する。

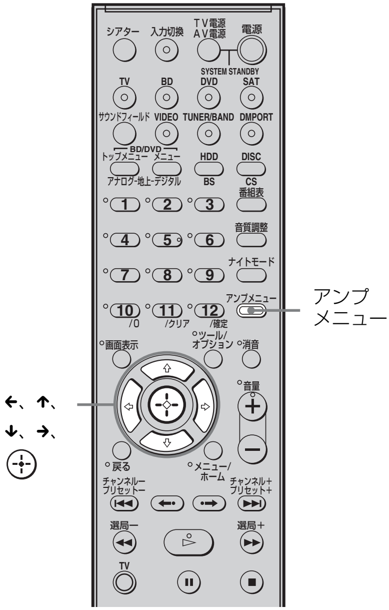
2 ←/↑/↓/→を繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

3 アンプメニューボタンを押して、アンプメニュー表示を消す。

続いてアンプメニューの各設定について説明します。

スピーカー接続の設定をする

サラウンドを充分に楽しむために、スピーカー接続の設定ができます。



1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「SP SETUP」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、設定したい項目を選び、⊕または→を押す。

- CENTER SP：センタースピーカーの設定をします。
- SUR SP：サラウンドスピーカーの設定をします。

次のページへつづく

設定

4 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。

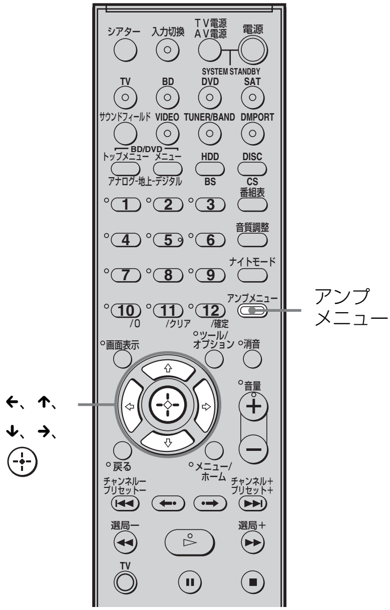
- CENTER (SUR) YES：センタースピーカー（またはサラウンドスピーカー）をつないでいるときに選びます。
- CENTER (SUR) NO：センタースピーカー（またはサラウンドスピーカー）をつないでいないときに選びます。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

スピーカーまでの距離を設定する

サラウンドを充分に楽しむために、リスニングポジションからスピーカーまでの距離を設定できます。



1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「SP SETUP」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、設定したい項目を選び、⊕または→を押す。

- FL DIST：左フロントスピーカーの距離を設定します。
- CNT DIST：センタースピーカーの距離を設定します。
- FR DIST：右フロントスピーカーの距離を設定します。

- SR DIST：右サラウンドスピーカーの距離を設定します。
- SL DIST：左サラウンドスピーカーの距離を設定します。
- SW DIST：サブウーファーの距離を設定します。

ご注意

- 「SP SETUP」で「CENTER NO」を選んでいるときは、「CNT DIST」が表示されません。
- 「SP SETUP」で「SUR NO」を選んでいるときは、「SR DIST」と「SL DIST」が表示されません。

4 ↑/↓を押して、距離を設定し、⊕または←を押す。

お買い上げ時の設定は3m 0cmです。0m 0cm～7m 0cmの範囲で設定できます。

ちょっと一言

- 自動音場補正の測定結果を保存しているときは、スピーカーの距離を1cm単位で調節できます。自動音場補正の測定結果を保存していないときは、スピーカーの距離を10cm単位で調節できます。

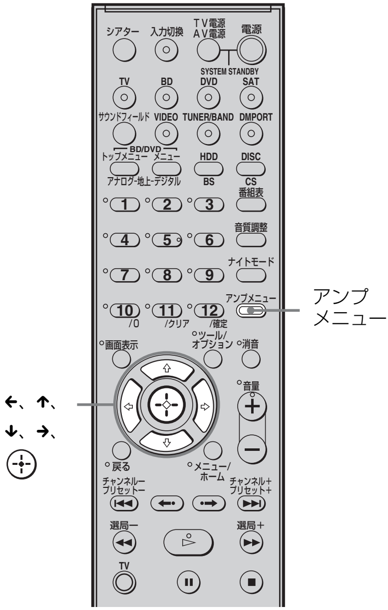
5 手順3と4を繰り返し、各スピーカーの距離を設定する。

6 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

各スピーカーのレベルやバランスを調節する

テストトーンを聞きながらスピーカーのレベルとバランスを調節できます。



1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「LEVEL」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「TEST TONE」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を繰り返し押して、「T.TONE ON」を選び、⊕を押す。

次のページへつづく

設定

各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。

5 **↑/↓を繰り返し押して、調節したい項目を選び、⊕または→を押す。**

レベル調節している間は、調節しているスピーカーからテストトーンが聞こえます。

- FL LEVEL：左フロントスピーカーのレベルを調節します。
- CNT LEVEL：センタースピーカーのレベルを調節します。
- FR LEVEL：右フロントスピーカーのレベルを調節します。
- SR LEVEL：右サラウンドスピーカーのレベルを調節します。
- SL LEVEL：左サラウンドスピーカーのレベルを調節します。
- SW LEVEL：サブウーファーのレベルを調節します。

ご注意

- 「SP SETUP」で「CNTER NO」を選んでいるときは、「CNT LEVEL」が表示されません。
- 「SP SETUP」で「SUR NO」を選んでいるときは、「SR LEVEL」と「SL LEVEL」が表示されません。

6 **↑/↓を押して、レベルを調節し、⊕または→を押す。**

お買い上げ時の設定は0.0 dBです。
−6.0 dB～+6.0 dBの範囲で0.5 dB単位で調節できます。

ご注意

- 一定時間レベル調節をしないと、次のスピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。

7 **手順5と6を繰り返し、各スピーカーのレベルを調節する。**

8 **すべてのスピーカーの調節が終わったら、↑/↓で[TEST TONE]を選び、⊕または→を押す。**

9 **↑/↓を繰り返し押して、「T.TONE OFF」を選び、⊕を押す。**

10 **アンプメニューボタンを押す。**

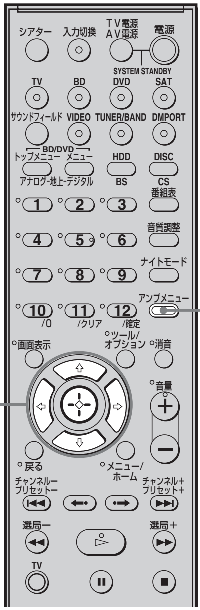
アンプメニューを終了します。

ご注意

- テストトーンはHDMI出力端子からは出力されません。

AAC（2ヶ国語放送）を楽しむ（DUAL MONO）

AACとは、BSデジタル放送や地上デジタル放送で採用されている音声方式です。
AACでは5.1 chのサラウンド放送や2ヶ国語放送にも対応しています。
BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力設定」などで設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご確認ください。
以上の準備が整った上で、次の操作を行ってください。



アンプメニュー

←、↑、↓、→、⊕

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「CUSTOMIZE」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「DUAL MONO」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。

- MAIN（主音声）：主音声のみを再生します。
- SUB（副音声）：副音声のみを再生します。
- MAIN＋SUB（主＋副）：左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。

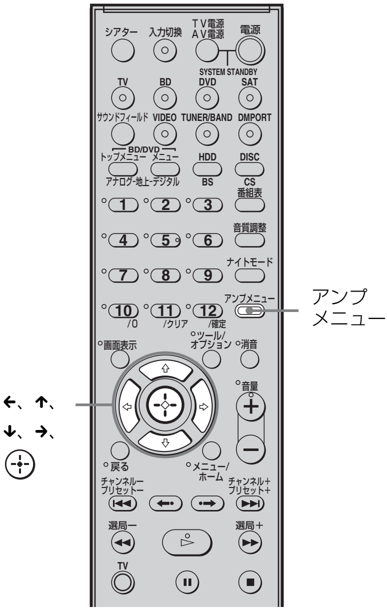
5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

次のページへつづく

映像の遅れに音声を合わせる（A/V SYNC）

映像が音声よりも遅れている場合、この機能で音声を遅らせることができます。



1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「CUSTOMIZE」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「A/V SYNC」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、調節する。

- SYNC OFF：調節しません。
- SYNC 1～20：1（10ミリ秒）～20（200ミリ秒）の範囲で、1（10ミリ秒）単位で調節できます。

5 アンプメニューボタンを押す。

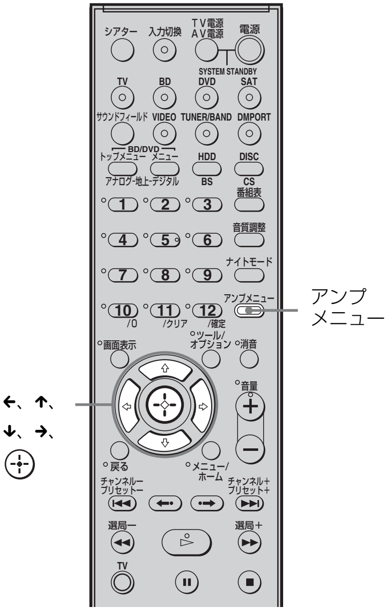
アンプメニューを終了します。

ご注意

- A/V SYNC機能を使っても、音声と映像を完全に合わせることができない場合もあります。
- A/V SYNC機能は光入力と同軸入力のDolby Digital、DTS、MPEG2-AAC、リニアPCM（2ch）に働きます。

小さい音量でドルビーデジタルサウンドを楽しむ（AUDIO DRC）

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。小さな音量で映画を楽しむときに便利です。AUDIO DRCはドルビーデジタルの音声にのみ対応しています。



1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「CUSTOMIZE」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「AUDIO DRC」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。

- DRC MAX：信号の幅を最大限に圧縮します。
- DRC STD：制作者が意図したようなダイナミックレンジで音声を再現します。
- DRC OFF：信号の幅は圧縮されません。

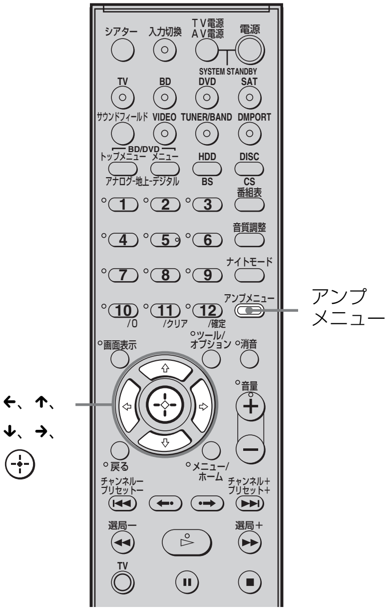
5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

次のページへつづく

本体表示の明るさを調節する（DIMMER）

表示窓の明るさを2段階で調節することができます。



1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「CUSTOMIZE」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「DIMMER」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。

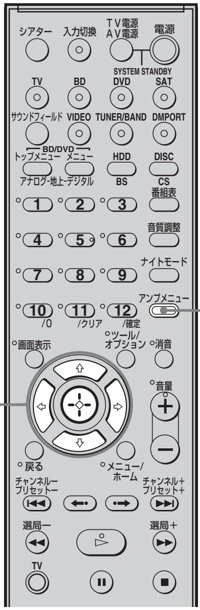
- DIMMER ON：表示窓の明るさが暗くなります。本機の電源を切ると、表示窓は暗くなります。
- DIMMER OFF：通常状態。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

表示窓の設定を変える（DISPLAY）

表示窓の設定を変更することができます。



1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を繰り返し押して、「CUSTOMIZE」を選び、⊕または→を押す。**

3 **↑/↓を繰り返し押して、「DISPLAY」を選び、⊕または→を押す。**

4 **↑/↓を押して、設定を選ぶ。**

- DSPL ON：常時、表示を点灯します。
- DSPL OFF：一定時間、表示を点灯します。

ご注意

- 「DISPLAY」で「OFF」を選んでいても、消音機能が有効になっているときやプロテクト状態のときは、常時表示を点灯します。

5 **アンプメニューボタンを押す。**

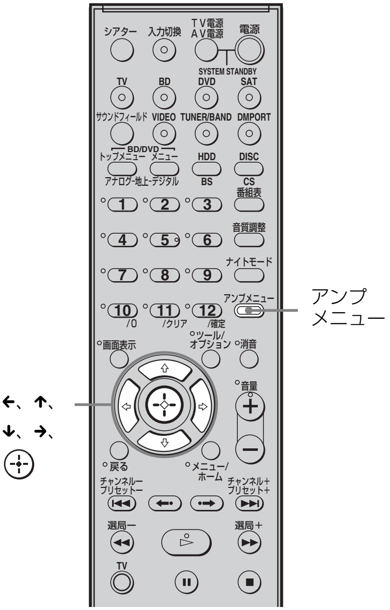
アンプメニューを終了します。

設定

次のページへつづく

スリープタイマーを使う

音楽などを聞きながらお休みになるとき、設定した時間に本機の電源を切ることができます。時間は10分間隔で設定することができます。



1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「CUSTOMIZE」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「SLEEP」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して設定時間を選ぶ。

設定時間は次のように切り替わります。

OFF ↔ 10M ↔ 20M
↕ ↕
90M ↔ 80M 30M

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

ご注意

- スリープタイマーは本機のみ適用されます。本機につないでいるテレビや他の機器には使えません。

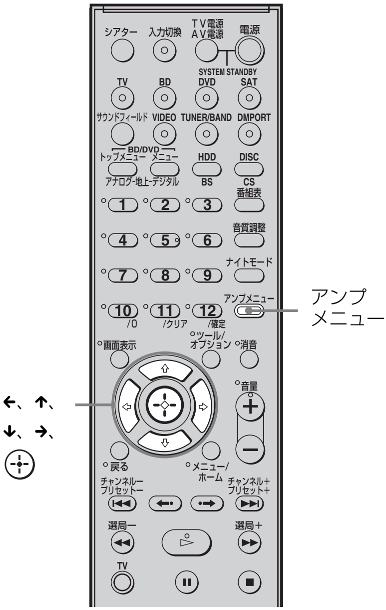
音声入力端子に入力ファンクションを割り当てる

アナログ音声入力を割り当てる

アナログ信号を持つ音声入力を、使われていないTVまたはBD、DVD、SAT、VIDEOのファンクションに割り当てることができます。

例：DVDプレーヤーを本機の“割り当て可能”ビデオ音声（左／右）入力端子につないで、音声ソースを出力する場合、

- DVDプレーヤーのアナログ音声出力端子と本機の“割り当て可能”ビデオ音声（左／右）入力端子をつなぎます。
- DVDファンクションを、「A. ASSIGN」設定で「ANALOG DVD」に割り当てます。



1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を繰り返し押して、「AUDIO」を選び、⊕または→を押す。**

3 **↑/↓を繰り返し押して、「A. ASSIGN」を選び、⊕または→を押す。**

4 **↑/↓を押して、設定を選ぶ。**

- ANALOG VD：アナログ音声入力をVIDEOファンクションに割り当てます。
- ANALOG TV：アナログ音声入力をTVファンクションに割り当てます。
- ANALOG SAT：アナログ音声入力をSATファンクションに割り当てます。
- ANALOG DVD：アナログ音声入力をDVDファンクションに割り当てます。
- ANALOG BD：アナログ音声入力をBDファンクションに割り当てます。

5 **アンプメニューボタンを押す。**

アンプメニューを終了します。

ご注意

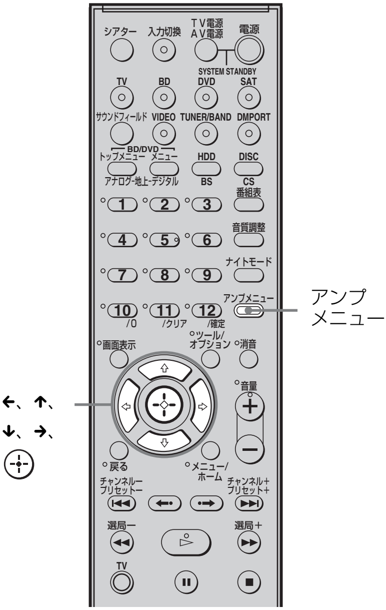
- オーディオ機器の映像を出力したとき、音声が出なくなることがあります。この場合、次の操作を行ってください。
  - 本機の“割り当て可能”ビデオ音声（左／右）入力端子につないだ機器と、ファンクションに割り当てた機器が同じかどうか確認する。
  - もう一度ファンクションを割り当てる。
- 他の入力に割り当てられたアナログ音声入力は、もとの入力で使うことはできません。
- アナログ音声入力をTUNER/BANDおよびDMPORTファンクションに割り当てることはできません。

次のページへつづく

デジタル音声入力を割り当てる

同軸のデジタル信号を持つ音声入力を、使われていないDVDまたはSATのファンクションに割り当てることができます。
例：DVDプレーヤーを本機の"割り当て可能同軸"SAT入力端子につないで、音声ソースを出力する場合、

- DVDプレーヤーの同軸出力端子と本機の"割り当て可能同軸"SAT入力端子をつなぎます。
- DVDファンクションを、「D. ASSIGN」設定で「COAX DVD」に割り当てます。



1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「AUDIO」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「D. ASSIGN」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。

- COAX SAT：同軸の音声入力をSATファンクションに割り当てます。
- COAX DVD：同軸の音声入力をDVDファンクションに割り当てます。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

ご注意

- 同じ入力に複数のデジタル音声を同時に割り当てることはできません。
- 他の入力に割り当てられたデジタル音声入力は、もとの入力で使うことはできません。
- デジタル音声入力をTVおよびBD、VIDEO、TUNER/BAND、DMPORTファンクションに割り当てることはできません。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。

全般

電源が入らない

- → 電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。

本機の表示窓に「PROTECTOR」と「PUSH POWER」が交互に表示される

I/⏻（電源）ボタンを押して電源を切り、「STANDBY」が消えたら次の項目を確認する。

- → 本機の通気孔がふさがっていないか？
  上記の項目を点検し、電源を入れる。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターに問い合わせる。

Dolby DigitalやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない

- → ブルーレイディスクやDVDなどがDolby DigitalやDTSフォーマットで録音されているか確認する。
- → つないだ機器のオーディオ設定（音声出力設定）を確認する。

サラウンド効果が得られない

- → デジタル音声信号によっては、サラウンド処理が働かないことがあります（40ページ）。

スピーカーから音が出ない、または音が小さい

- → 音量＋ボタンを押し、音量を確認する。
- → 消音ボタンや音量＋ボタンを押して、消音機能を解除する。
- → サウンドフィールドボタンを押して、現在のサウンドフィールドを確認する。
- → 音源によってはスピーカーの音響効果が、はっきりと目立たない場合があります。

センタースピーカーからしか音が出ない

- → スピーカーの接続と設定を確認する（18、59ページ）。
- → ディスクによってはセンタースピーカーからしか音が出ないものもある。

センタースピーカーから音が出ない

- → スピーカーの接続と設定を確認する（18、59ページ）。
- → サウンドフィールドを「OMNI-DIRECTIONAL SOUND」以外にする（40ページ）。
- → ソースによってはソフトの音声効果上、センタースピーカーの音が小さく記録されているものがある。

サラウンドスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない

- → スピーカーの接続と設定を確認する（18、59ページ）。
- → 選ばれているサウンドフィールドを確認する（40ページ）。
- → ソースによってはソフトの音声効果上、サラウンドスピーカーの音が小さく記録されているものがある。
- → マルチチャンネル信号ではなく、モノラル、ステレオの信号を再生している。

テレビの音声が映像より遅れる

- → 「A/V SYNC」が設定されていたら、「A/V SYNC」を「SYNC OFF」（オフ）に設定する。

次のページへつづく

つないだ機器

どの機器を選んでも音が出ない、または音が小さい

➔ 本機とそれぞれの機器が正しくつながれているか確認する。
➔ 本機とつないだ機器の電源がオンになっているか確認する。

選んだ機器から音が出ない

➔ つないだ機器が、オーディオ端子に正しくつながれているか確認する。
➔ つないだ機器と本機のコードが、端子の奥までしっかり差し込まれているか確認する。
➔ つないだ機器が正しく選択されているか確認する。
➔ 音量が最大のときに、ディスクをつづき再生すると、音がでないことがあります。このときは、音量を小さくしてから、本機の電源を切り、電源を入れてください。

音が途切れたり、ノイズが出る

➔「本機で対応するデジタル入力フォーマット」を確認する（74ページ）。

テレビ画面に映像が出ない、映像がはっきりしない

➔ 入力ボタンで該当する入力を選ぶ。
➔ テレビを該当する入力モードにする。
➔ オーディオ機器をテレビから離す。
➔ デジタルメディアポートアダプターによっては、映像が出力されないことがあります。

サブウーファーのHDMI端子に入力される映像がテレビ画面に出ない

➔ HDMI接続を確認する。
➔ 再生機器によっては、設定が必要になります。詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

テレビ画面に映像は出るが、音が出ない

➔ 音声入力割り当ての設定を確認する（69、70ページ）。

HDMI機器制御

ブラビアリンクを使用中、次のような問題が発生した場合は、以下の方法をお試しください。

HDMI機器制御機能が働かない

➔ HDMI接続を確認する（19ページ）。
➔ アンプメニューで「CTRL: HDMI」が「CTRL ON」に設定されていることを確認する。
➔ つないだ機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認する。
➔ つないだ機器のHDMI機器制御の設定を確認する。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
➔ HDMI接続を変更したときや、本機の電源コードを抜き差ししたとき、また、停電があったときは、「ブラビアリンクの準備をする」（45ページ）の手順を再度行ってください。
➔ HDMI機器制御機能に対応していない機器をテレビにつなぎ、その機器の入力をテレビで選択した場合、本機が正しく動作しないことがあります。

システムオーディオコントロール機能を使っているときに、本機とテレビの両方から音が出ない

➔ 本機またはテレビの音量を確認する。
➔ 本機の入力が正しく選択されているかを確認する。

システムオーディオコントロール機能を使っているときに、本機とテレビの両方から音が出る

➔ HDMI機器制御機能がオフ（切）のときや、選んだ機器がHDMI機器制御機能に対応していないときは、本機またはテレビを消音する。

電源オフ連動機能が働かない

➔ テレビの電源を切るとつないだ機器の電源が自動的に切れるように、テレビの設定を変更してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

テレビに映像が出ない

→ 本機のHDMI入力端子とHDMI出力端子を逆につないでいないか、確認する。

その他

リモコンが機能しない

→ サブウーファーとリモコンレシーバーが正しくつながれているか確認する。
→ リモコンレシーバーの🅁に向けて操作する。
→ リモコンとリモコンレシーバーとの間に障害物を置かない。
→ 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り替える。
→ 本機のリモコンの入力ボタン（TV、BD、DVD、SAT、TUNER/BAND、DMPORT）を押して、操作したい機器を選ぶ（54ページ）。

音声の出力方法をテレビのスピーカーから本機のスピーカーに変更したときに、音量が下がる

→ 音量制限機能が働いています。詳しくは「音量制限機能を使う」（48ページ）をご覧ください。

これらの処置をしても正常に動作しないときは—リセット

下記の手順で操作します。

1 本機の電源を入れる。

2 本機のINPUT SELECTORボタン、VOLUME－ボタン、I/⏻（電源）ボタンを同時に押す。
表示窓に「COLD RESET」と表示され、アンプメニューやサウンドフィールドなどがお買い上げ時の状態に戻ります。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

次のページへつづく

部品の保有期間について

当社では、ホームシアターシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、ソニーサービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：HT-IS100
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカー名と型番：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

本機で対応するデジタル入力フォーマット

本機で対応するデジタル入力フォーマットは以下のとおりです。

フォーマット	対応／非対応
Dolby Digital	○
DTS	○
リニアPCM（2ch）*	○
リニアPCM（5.1ch、7.1ch）*（HDMIのみ）	○
Dolby Digital Plus	×
Dolby True HD	×
DTS-HD	×

* リニアPCMは、96 kHz以下のサンプリング周波数に対応します。

アンプ部

総合出力

実用最大出力* フロント部：45 W + 45 W (10 Ω、JEITA**)
センター部：45 W (10 Ω、JEITA**)
サラウンド部：45 W（1チャンネルあたり）(10 Ω、JEITA**)
サブウーファー部：100 W + 100 W（4 Ω、JEITA**）
サウンドフィールドやソースによっては出力しない場合があります。

入力端子（アナログ）

ビデオ 入力感度：700 mV
インピーダンス：33 kΩ

入力端子（デジタル）

TV、DVD 光

SAT 同軸、光

HDMI部

コネクター　19ピンHDMI標準コネクター
ビデオ入出力　BD、DVD、SAT：
640 × 480p、60 Hz
720 × 480p、59.94/60 Hz
1440 × 480p、59.94/60 Hz
(pixel sent 2 times)
1280 × 720p、59.94/60 Hz
1920 × 1080i、59.94/60 Hz
1920 × 1080p、59.94/60 Hz
720 × 576p、50 Hz
1440 × 576p、50 Hz
(pixel sent 2 times)
1280 × 720p、50 Hz
1920 × 1080i、50 Hz
1920 × 1080p、50 Hz
1920 × 1080p、24 Hz
オーディオ入力
BD、DVD、SAT：
リニアPCM7.1ch/Dolby Digital/DTS/AAC

チューナー部

回路方式　PLLデジタル周波数シンセサイザークォーツロック方式
FMチューナー部
受信周波数　76.0－90.0 MHz
（100 kHz間隔）
アンテナ　ワイヤーアンテナ 75 Ω、不平衡型
中間周波数　10.7 MHz
AMチューナー部
受信周波数　531－1,602 kHz（9 kHz間隔）
アンテナ　ループアンテナ
中間周波数　450 kHz

映像部

入力　ビデオ：1 Vp-p 75 Ω
入力／出力　コンポーネントビデオ：
Y：1 Vp-p 75 Ω
CB、CR：0.7 Vp-p 75 Ω

スピーカー
フロント/センター /サラウンド（SS－IS15）

方式　密閉型（JEITA**）
形状　35 mm
定格インピーダンス
10 Ω
最大外形寸法　45 × 55 × 40 mm（幅／高さ／奥行き）
質量　約0.07 kg
スピーカーコード
4.5 m × 2、3 m × 1、12 m × 2

サブウーファー（SA-WIS100）

方式　バスレフ型（JEITA**）
形状　120 mm + 160 mm
定格インピーダンス
4 Ω
最大外形寸法　238 × 441 × 434 mm（幅／高さ／奥行き）
質量　約14.5 kg
電源　AC 100 V、50/60 HZ
消費電力　電気用品安全法による表示：115 W
HDMI機器制御 がオフ（切）のとき（スタンバイ状態のとき）：0.3 W未満
電源出力
（デジタルメディアポート）
DC OUT：5 V、700 mA

リモコンレシーバー（IR-R100）

最大外形寸法　46 × 19 × 45 mm（幅／高さ／奥行き）
質量　0.15 kg

* JEITA（電子情報技術産業協会）の規格による測定値です。
**JEITA（電子情報技術産業協会）

本機は「JIS C61000-3-2 適合品」です。
仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- 待機時消費電力　0.3 W
- 主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません。
- フルデジタルアンプS-master搭載によりアンプブロックの電力効率を85%以上に改善。

用語解説

自動音場補正（D. C. A. C.）

ソニーが開発した自動音場補正（Digital Cinema Auto Calibration）は、スピーカーの距離やレベルを自動的に測定し、短時間で視聴環境のスピーカー設定を調整する。

ドルビーデジタル

ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIは2チャンネルソースを5チャンネルで全帯域再生する。それを行うのが、ソースにない音や音の色付けを加えることなく、オリジナル録音の空間的特質を引き出す先進的で高音質のマトリックスサラウンドデコーダである。

AAC

BSデジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式。「アドバンスド・オーディオ・コーディング（Advanced Audio Coding）」の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現する。

DTS

DTS社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）

パソコン用ディスプレイなどで使用されているDVI（Digital Visual Interface）規格を拡張した次世代テレビ向けのデジタルインターフェース規格。映像と音声を1つのケーブルで、信号がデジタルのまま、劣化することなく伝送できる。デジタル画像信号の暗号化記述を使用した著作権保護技術であるHDCPにも対応している。

PCM

アナログ音声をデジタル音声に変換する方式。Pulse Code Modulation（パルス・コード・モジュレーション）の略で、手軽にデジタル音声を楽しむことができる。

S-master

ソニーが独自に開発したデジタルアンプ技術。従来のアナログアンプに比べ、原理的にゼロクロス歪みが発生しない点をはじめ、高効率で発熱が少ないため、小型化が容易であるなど、数々の特長を備えている。

TSP（Time Stretched Pulse）信号

TSP信号は、短い時間の中に低域から広域までの広い帯域にわたって、高密度にエネルギーが詰められた測定信号である。
一般的な室内環境で測定精度を確保するためには、測定信号のエネルギー量が重要であり、TSPを使うことで、効果的に測定を行うことができる。

x.v.Color

動画色空間「xvYCC」国際規格に対応し、従来より広い色域を再現でき、花の色や複雑に変化する美しい海の色など、自然界の色を鮮やかに再現する。

索引

あ行

さ行

た行

な行

は行

ら行

A-Z

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口	**修理相談窓口**
フリーダイヤル ・・・・・・・・・・0120-333-020	フリーダイヤル ・・・・・・・・・・・0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話 ・・・・・・・・・・0466-31-2511	携帯電話・PHS・一部のIP電話 ・・・・・・・・・・・0466-31-2531 ※取扱説明書・リモコン等の購入相談は こちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に

「306」+「#」

を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Sony Corporation Printed in Malaysia

* 3 2 9 9 2 7 0 0 1 * (3)